

# 金ヶ崎周辺施設整備計画策定委員会

## 第2回説明資料

平成29年8月21日

敦賀市産業経済部新幹線まちづくり課

# 目次

1. 敦賀市と金ヶ崎周辺地区の現況	3
2. 敦賀市の上位計画	18
3. 敦賀市と金ヶ崎周辺地区の課題	27
4. 基本方針	32
5. 事業計画	40
6. 金ヶ崎周辺地区の機能計画	54
7. ムゼウムの機能計画	78
8. 管理運営計画	89

本日の論点

# 1. 敦賀市と金ヶ崎周辺地区の現況

# 1. 敦賀市の観光動向

## (1) 主要観光スポット(市街地)

### ① 氣比神宮周辺

- 氣比神宮、キッズパークつるが 等

### ② 金ヶ崎地区周辺

- 赤レンガ倉庫、旧敦賀港駅舎
- 人道の港「敦賀ムゼウム」
- 金崎宮・金ヶ崎城跡 等

### ③ 舟溜り地区周辺

- 市立博物館、山車会館
- 町家ショップ、紙わらべ資料館 等

### ④ 氣比の松原

- 名勝氣比の松原、来迎寺 等

### ⑤ 敦賀駅周辺

- オルパーク、駅前商店街、シンボルロード 等



# 1. 敦賀市の観光動向

## (2) 観光客数の推移

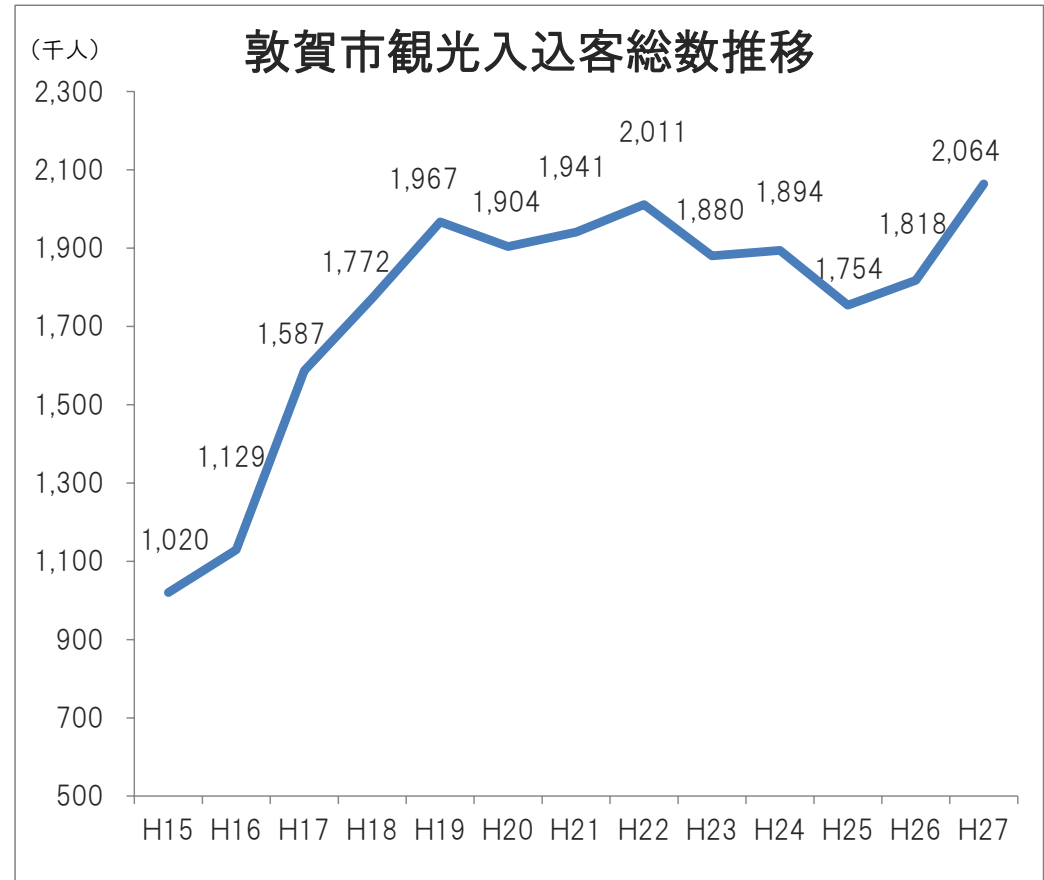
近年は増減を繰り返す。

- 平成15年 約102万人

▼ 約2倍増加

平成19年 約197万人

- 平成19年からは、微増減を繰り返す。
- 平成27年は約206万人で、最も多くの観光客数を記録。

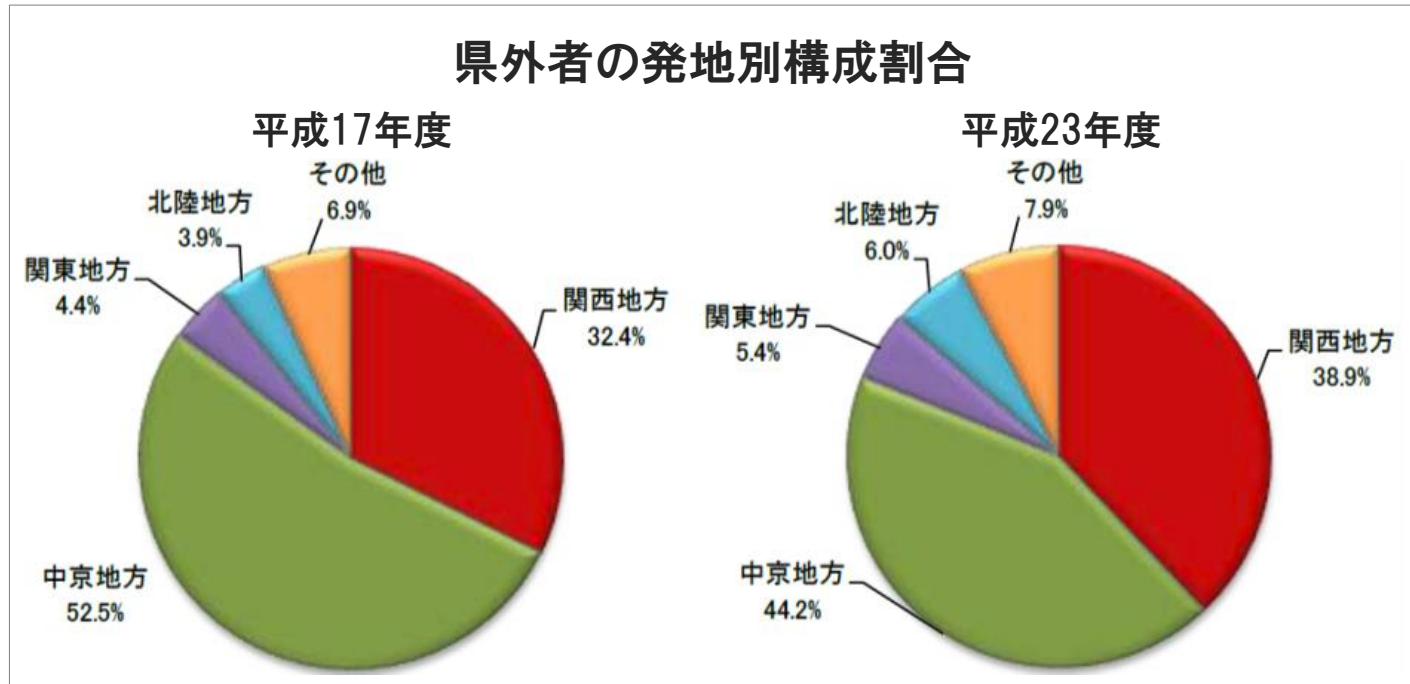


# 1. 敦賀市の観光動向

## (3) 県外観光客数の発地別構成割合

敦賀の観光客は、関西・中京地方から来訪が約8割。

- 県外客の発地別構成割合では、約8割が関西・中京方面。
- 関東地方からの観光客はわずか5%程度に過ぎない。北陸新幹線沿線の観光客を合わせても10%程度か。



## (4) 今後の展望

平成34年度に北陸新幹線が延伸。さらなる飛躍を期待。

- 観光動向調査のアンケートでは、北陸新幹線が敦賀まで延伸した際、約8割が敦賀への訪問を希望。首都圏の観光客の取り込みに期待。

# 1. 敦賀市の観光動向

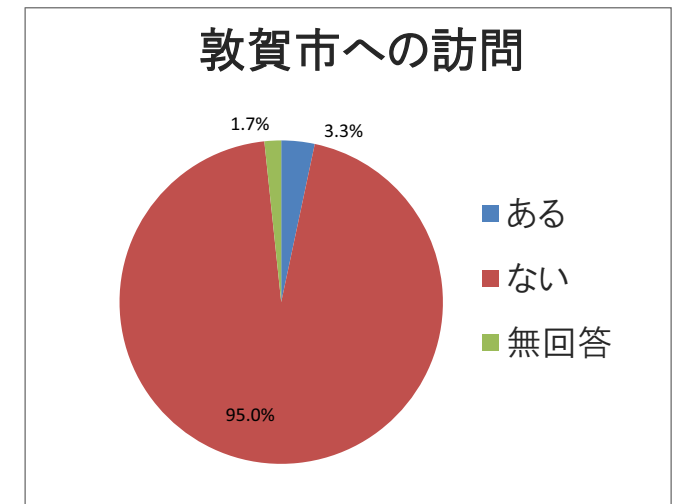
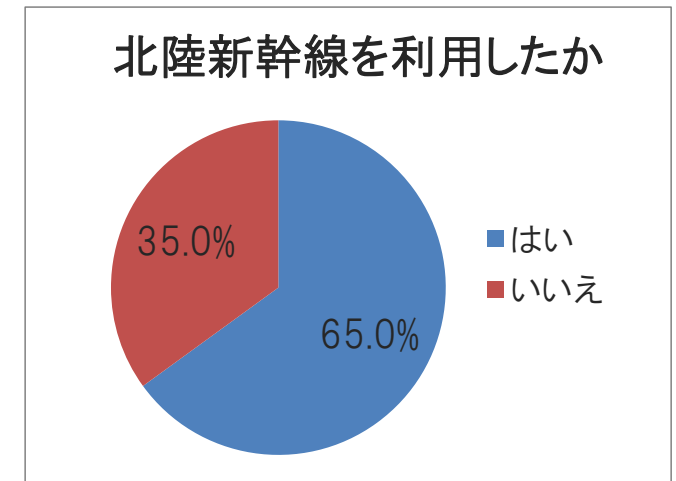
## (4) 観光客意識調査結果

**金沢を訪れている観光客は、ほとんどが敦賀を訪れたことがない。**

※(株)JTB中部による北陸新幹線敦賀開業受け皿づくり検討業務  
(観光客に向けたアンケート調査等)より抜粋

### ① 金沢市を訪れた観光客へのアンケート結果

- 出発地は、関東52%、東海12%、関西10%。
- **約7割が北陸新幹線**を利用して金沢を訪問。
- 敦賀市を知らないと答えた観光客は**約4割**。
- 敦賀市を訪れたことがない観光客は**約9割**。
- 敦賀市のイメージは、**未記入**が目立った。
- 具体的な記入で一番多い回答は「**原発**」。
- 「花火」「海」「寺院」など具体的でない回答も。



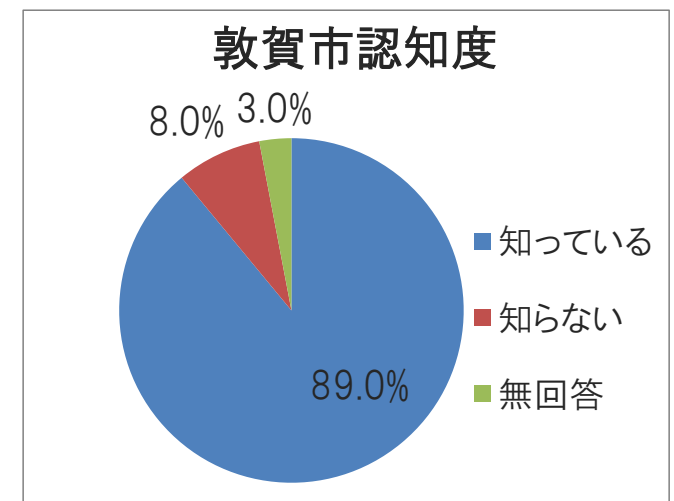
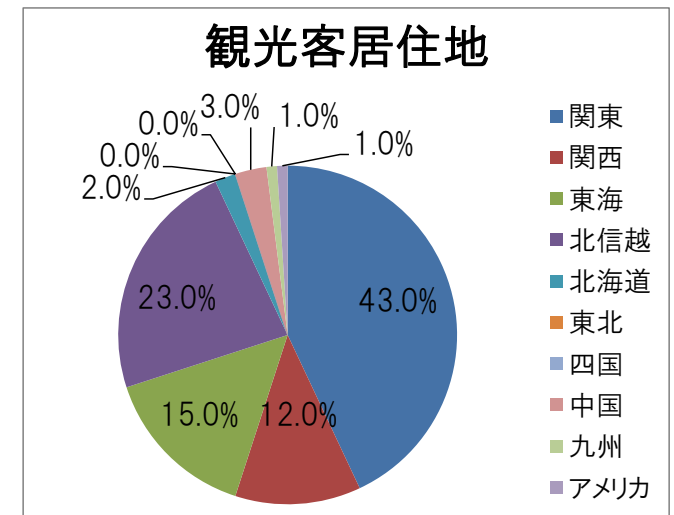
# 1. 敦賀市の観光動向

## (4) 観光客意識調査結果

富山を訪れている観光客は、敦賀の存在を知ってはいるものの、具体的なイメージがなく、認識不足。

### ② 富山市を訪れた観光客へのアンケート結果

- 出発地は、関東43%、北信越23%、東海15%。
- 敦賀市を知らないと答えた観光客は約1割。
- 敦賀市を訪れたことがない観光客は約6割。
- しかし、敦賀市のイメージは未記入が多く、認知度はあるが、認識は低いと推測できる。
- 一番多い回答は「原発」(金沢より多い回答数)
- 港や海、ソースカツ丼、おろしそば等も回答。
- 「東尋坊」の回答等、エリアの認識不足。





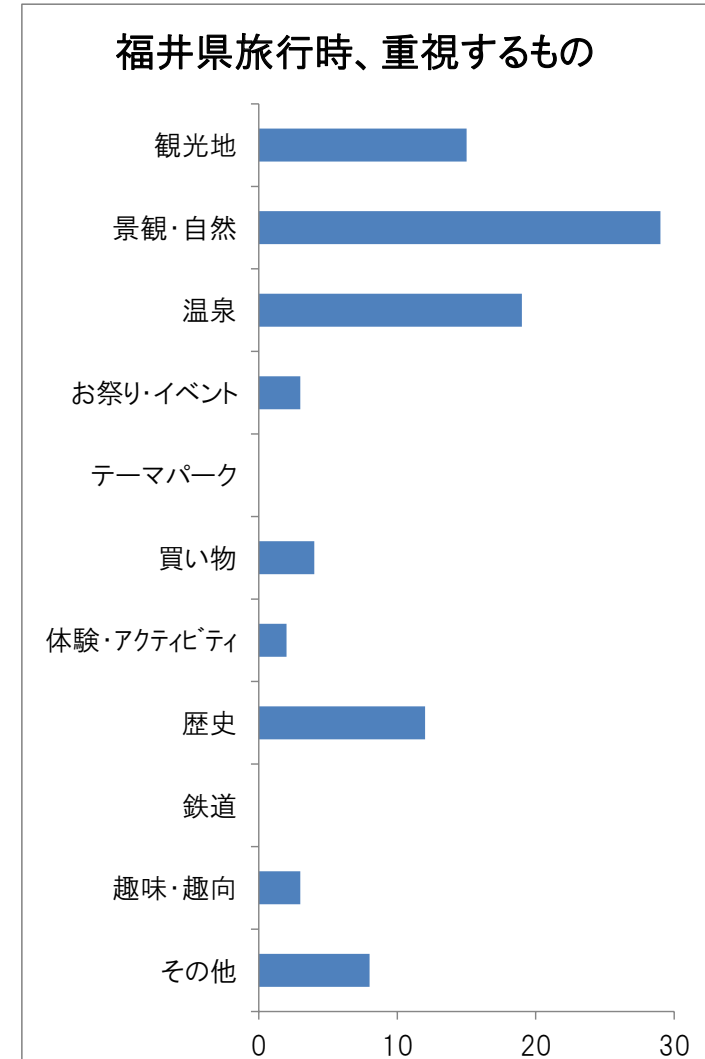
# 1. 敦賀市の観光動向

## (4) 観光客意識調査結果

敦賀を訪れている観光客も、敦賀のイメージが定まっていない。

### ③ 敦賀市を訪れた観光客へのアンケート結果

- 出発地は、関西36%、関東22%、東海19%。福井県への旅行動機は、「**景観・自然**」を最も重視している。次に、「温泉」「観光地」「歴史」。
- 敦賀の観光地として「**氣比神宮**」への認識は高い。次に、「氣比の松原」「赤レンガ」「金崎宮」。
- 「さかな街」「ムゼウム」は少数回答。
- 「三方五湖」等、認識不足の回答もある。
- **敦賀のイメージはやはり定まっていない**。敦賀の主なイメージは、「海・港町」「原発」「海産物」等。



# 1. 敦賀市の観光動向

## (4) 観光客意識調査結果

### 「敦賀ブランド」として、誰でも知っている「敦賀コンテンツ」確立へ

#### ④ 調査結果の所感・まとめ

- 敦賀には着地型コンテンツになるものはあるが、**メインとなるキラーコンテンツが首都圏へ全く浸透してない。**
- まつりや花火等のイベントは、全国各地に数多くあり、敦賀が突出してアピールできるものではない。
- ソースカツ丼やそば、ふぐも福井県の認識。敦賀独自のものではない。
- 市内へのアクセスとなる周遊バスは、本数も多くななく、利便性はよくない。
- 観光コースに「**ハコモノ**」施設が多い**印象**。現在は個人旅行が増え、特別な体験等、個人の満足度の高いものを求める傾向が高くなっている。
- 金ヶ崎緑地は、敦賀湾の歴史を感じられる湾岸エリア。公園として整備されているが、**中途半端な状態**で放置されている印象。
- 北陸新幹線の開業に向け、「敦賀ブランド」を確立して、広域観光のルートづくりが必要。

# 2. 金ヶ崎周辺地区の概要

## (1) 金ヶ崎周辺地区

### 国内有数の港町だった頃の面影を残すエリア

- 明治時代にはウラジオストクとの間に定期船が開かれ、ロシアとの貿易や国際郵便の経由等で大いに栄えた。
- 東京(新橋)からパリを結ぶ欧亜国際連絡列車も運行されていた(敦賀から船、シベリア鉄道経由)。
- 敦賀は「港と鉄道」で欧州に開かれた、名実ともに「日本の玄関」だった。
- 港湾設備の拡充により、当時の面影はないが、港湾・鉄道遺産が往時を偲ぶよすがとなっている。
- 赤レンガ倉庫の整備が話題を呼び、昨年度は観光客が倍増している。



	27(2015)年	28(2016)年
観光客数	156,200人	356,100人

※赤レンガ倉庫・ランプ小屋・旧敦賀港駅舎・ムゼウムの年間利用者数+ミライエ動員数

# 2. 金ヶ崎周辺地区の概要

## (2) 人道の港 敦賀ムゼウム

### 後世に誇るべき博愛の精神を感じ、伝え継ぐミュージアム

- 東洋の波止場と謳われた敦賀港は、過去に幾度も難民を受け入れている。
- 大正9(1920)年と11(1922)年には、混乱するシベリアから、日本赤十字社により約800人のポーランド孤児が救われた。
- 昭和15(1940)年には、杉原千畝の「命のビザ」によって、およそ4~6000と言われるユダヤ人難民が敦賀を經由して自由を手に入れた。
- 本館は、これらの事績を伝える目的で、平成20(2008)年に開館した。
- 杉原千畝の映画化や、世界記憶遺産への登録申請で注目を浴び、昨年度は倍近く利用者数を伸ばしている。



	27(2015)年	28(2016)年
利用者数	26,900人	48,900人

# 2. 金ヶ崎周辺地区の概要

## (2) 人道の港 敦賀ムゼウム

延床面積	展示面積
278㎡	177㎡

A.大陸への玄関・敦賀港  
東洋の波止場

B.欧亜国際連絡列車  
大陸横断

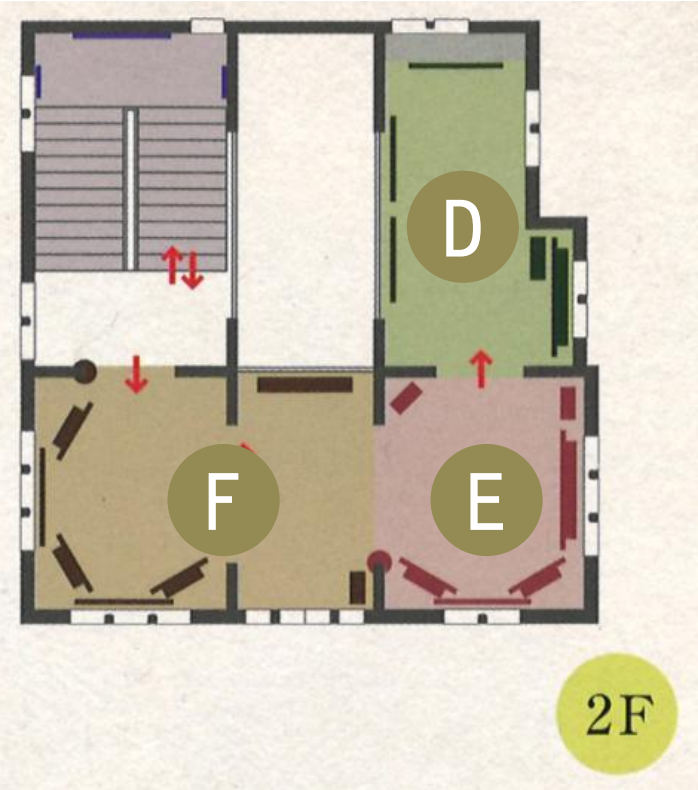
C.交流コーナー  
来館者のメッセージ  
交流



D.杉原千畝コーナー  
博愛精神第一

E.ユダヤ人難民  
自由と平和

F.ポーランド孤児  
感謝



## 2. 金ヶ崎周辺地区の概要

### (3) 敦賀赤レンガ倉庫 巨大ノスタルジオラマ

#### ノスタルジーと出会える、港まち敦賀の新たな観光スポット

- 外国人技師の設計により明治38(1905)年に建築された県内有数のレンガ建造物。登録有形文化財。
- 観光施設として「ジオラマ館」「レストラン館」「オープンガーデン」を整備し、平成27(2015)年10月に開館。
- 戦前の敦賀の港と鉄道をジオラマ化した「ノスタルジオラマ」は、鉄道ジオラマとして国内最大級の規模を誇る。
- 年間8万人を集客目標としていたが、開館9ヶ月で10万人を突破した。



	27(2015)年	28(2016)年
利用者数	69,400人※	212,400人

※約5ヶ月間

## 2. 金ヶ崎周辺地区の概要

### (4) 港湾遺産・鉄道遺産

#### ①旧敦賀港駅舎(敦賀鉄道資料館)

- 東京～パリを17日間で結んだ、かつてのヨーロッパへの最短路、欧亜国際連絡列車の発着駅を再現。
- 現在は敦賀港の歴史を紹介している。

#### ②旧敦賀港駅ランプ小屋

- 明治15(1882)年頃、列車の灯火に使用されるカンテラの燃料を保管する油庫として建築。現在は修復され公開中。

#### ③北陸本線貨物支線(敦賀港線)

- かつて欧亜国際連絡列車が走った。戦前戦後を通して主に貨物線として利用。
- 平成21(2009)年に廃止され、現在は利用されていない。



## 2. 金ヶ崎周辺地区の概要

### (5) 歴史的資源

#### ① 金崎宮

- いわゆる**建武中興十五社**の一つとして、**明治時代に創建**。祭神は南朝の恒良親王と高良親王。
- 境内には約千本のソメイヨシノがあり、県内屈指の桜の名所として知られ、4月上旬には神事・花換まつりが行われる。



#### ② 金崎城跡・金前寺

- 南北朝時代、新田義貞と足利軍が戦った古戦場。松尾芭蕉が敦賀を訪れた際、「月いつこ鐘は沈るうみのそこ」と詠んだ。
- 織豊期には朝倉軍と織田軍の間でも戦いが繰り広げられた(金ヶ崎の退き口)。





## 2. 金ヶ崎周辺地区の概要

### (6) 周辺の港湾遺産・鉄道遺産

#### ① 敦賀駅 転車台

- 昭和27(1952)年製造と記されている。

#### ② 眼鏡橋

- 初の北陸線施設。市街地で明治前期に遡る唯一の鉄道遺産として高価値。

#### ③ 北陸本線 トンネル群

- 当時最長だった柳ヶ瀬トンネルを含め長浜～敦賀間は明治12年(1879)年に全通。

#### ④ 本町第3公園SL

- 昭和46(1971)年まで小浜線で活躍していたC58型蒸気機関車を目玉として設置。

#### ⑤ 立石岬灯台

- 明治14(1881)年に石造り灯台としては初めて日本人のみによる設計、施工で建設。

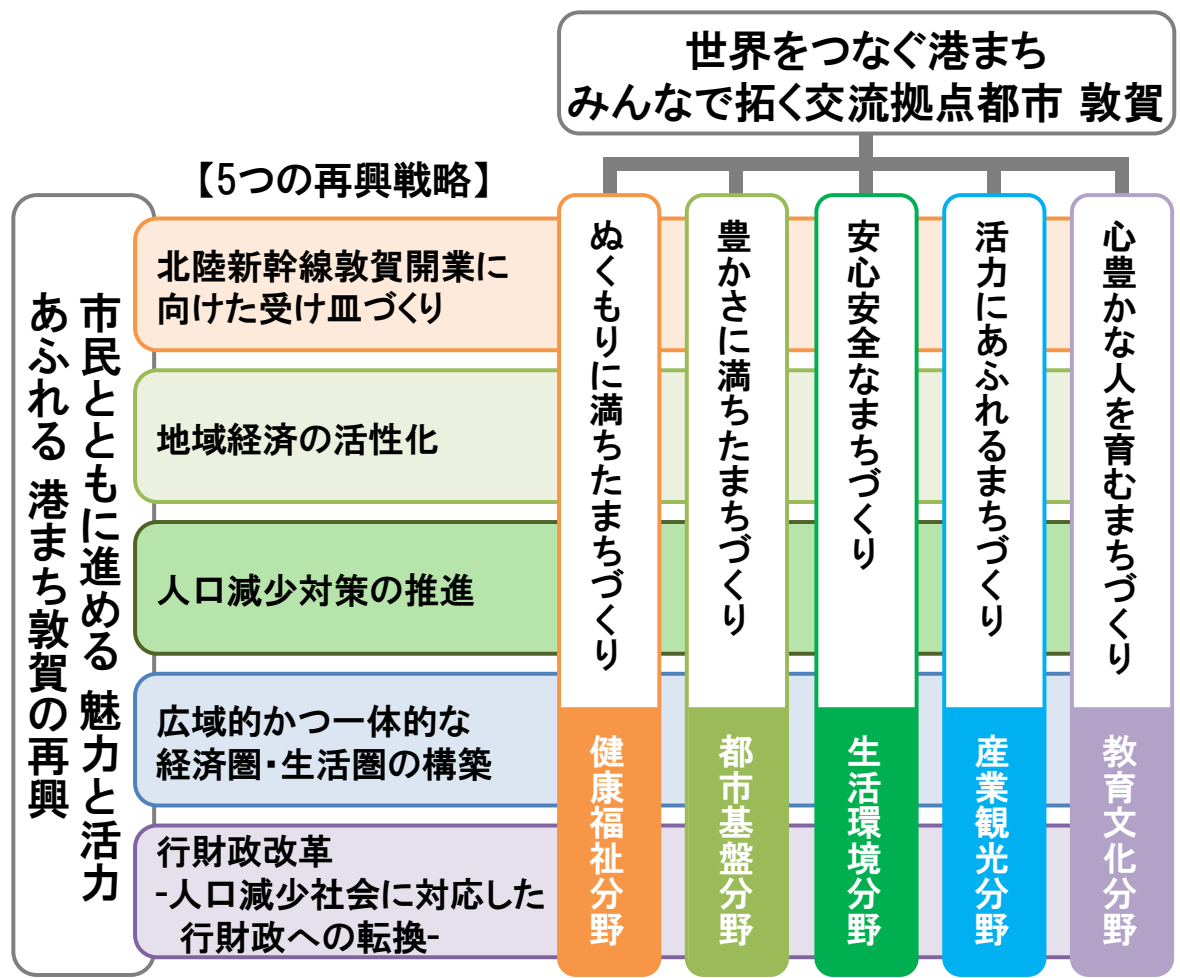


## 2. 敦賀市の上位計画

# 1. 第6次敦賀市総合計画後期基本計画実施計画

## (1) 敦賀市再興プラン全体像

市民とともに進める 魅力と活力あふれる 港まち敦賀の再興



### 【前期基本計画中の社会変化】

- 北陸新幹線金沢・敦賀間の着工認可(平成34年度開業予定)。
- 原子力発電所の長期運転停止による地域経済の停滞。
- 見通しを上回る人口減少。少子高齢化の加速。

後期基本計画で対応

# 1. 第6次敦賀市総合計画後期基本計画実施計画

## (2) 金ヶ崎周辺施設整備の位置付け

### 再興戦略1

#### 北陸新幹線敦賀開業に向けた受け皿づくり

- 敦賀のイメージ戦略の推進
- 各地域資源を活かした回遊性を創出する観光資源開発
- 二次交通等の充実

### 第2章 豊かさに満ちたまちづくり

#### 第2節 市街地の活性化

- テーマ性を持った一体的整備
- 回遊性の向上
- 官民の連携と民間主導の重視

名 称	敦賀港周辺エリア活性化計画		再興戦略1
概 要	敦賀港周辺エリアは、国際港として繁栄した往時を体感することができるエリアであることから、金ヶ崎周辺整備構想に基づき、「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会の活動に支援するとともに、人道の港敦賀ムゼウムの整備を行うなどの官民連携によって、受け皿づくりにおける最大の観光拠点化を目指します。		
主な取組	人道の港敦賀事業		
	鉄道開通等記念事業		
	人道の港敦賀ムゼウム整備事業		
成果指標	内 容	基準年度	目標年度
	歩行者・自転車通行量（休日）	2,471 人/日	3,150 人/日

## 2. 敦賀市観光振興計画 (平成25年度～34年度)

### (1) 基本理念

港と鉄道を本市の象徴として  
位置付け、これらを核とした  
観光の【まちづくり】

敦賀に関わる全ての人が、  
感謝の気持ちでおもてなし  
できるような【ひとづくり】

### (2) 基本方針

多様な観光資源の活用と保全

マーケティング戦略の推進

ホスピタリティの充実

観光振興の推進体制の強化

### (3) 目標値

目標指数	平成24年(基準)	平成26年	平成30年	平成34年
敦賀市観光入込客数	190万人	200万人	223万人	240万人
うち宿泊観光客数	13.3万人	14万人	19万人	21万人
観光消費額	44億円	48億円	63億円	66億円

# 3. 景観まちづくり刷新モデル地区に選定

福井県敦賀市 ～観光拠点「人道の港」の整備とまちなみ刷新～



敦賀市公認キャラクター  
よっしー

### 敦賀市概要

市域面積: 251.34 km<sup>2</sup>  
人口: 66,842 人  
予算規模: 253億円  
(H28一般会計当初予算)  
財政力指数: 0.969

### 景観刷新モデル地区概要

面積: 約1.6km<sup>2</sup>  
主な移動方法: 徒歩、自転車、周遊観光バス  
JR敦賀駅より徒歩(自転車)で  
(1) 金ヶ崎周辺 30分(10分)  
(2) 舟溜り地区 30分(10分)  
(3) 氣比神宮 15分(5分)

### 3年間で実施する主な事業

- ① 観光交流センター 4棟 A=740 m<sup>2</sup>
- ② 駐車場の整備 2箇所  
a: 施設付属駐車場A=6,000m<sup>2</sup>  
b: 駅前立体駐車場A=2,600m<sup>2</sup>
- ③ 道路空間美化 L=800m
- ④ レンタサイクルステーション 11箇所

### 事業実施箇所及びモデル地区等

クルーズ客船の景観  
金ヶ崎周辺 エリア  
金ヶ崎 緑地  
赤レンガ倉庫  
【重文】市立博物館  
舟溜り地区  
博物館通り  
舟溜り公園  
門前町  
氣比神宮  
【重文】  
松本零士作品モニュメント  
シンボルロード  
敦賀駅  
新幹線(予定)

凡例  
- 主な事業箇所  
- モデル地区  
- 主要施設等  
- 重点景観形成エリア  
- レンタサイクル駅主要位置



### III 事業の実現可能性

- すでに市民の理解を得ているグランドデザイン(金ヶ崎周辺整備構想等)に沿って事業を実施するため地元住民との調整は軽微なものが多く、事業の実現可能性は極めて高い。
- 特に民間市民団体「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会が積極的に同エリア内で活動しており、すでに官民一体的な取り組みが進んでいることから、このノウハウを活かした事業の実施が可能である。

### I 景観の刷新

#### ① 観光交流センター「人道の港」交流施設整備事業

金ヶ崎周辺空撮図  
大正当時の建築物を復元  
整備構想の実現

建設予定地周辺  
大正頃の敦賀港  
「整備コンセプト」敦賀ノスタルジアム(ノスタルジー+ミュージアム)  
金ヶ崎周辺の20～30年後 将来イメージ図

#### ③ 本町通り(国道8号)道路空間美化事業

【事業概要】  
・歩道の美化化・景観植栽の充実  
・ストリートファニチャー50個程度設置

### IV 景観に関するこれまでの取組状況

○博物館通り賑わい創出プロジェクト  
道路の石畳化、電線地中化、町家建築物テナントミックス事業、朝市の実施、住民によるおもてなし事業「吊るし雛」等

手作り吊るし雛 before after

### VI 民間による取組内容

○民間団体「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会・官による施設整備等に合わせた連携イベントを実施する等、ソフト面で重要な役割を果たしている団体  
・メイン事業のイルミネーション事業では、市民総参加を目指し、市民から回収した家庭用廃油を扱い、運営はすべてボランティアスタッフ(約100人)で冬季50日間におよぶ金ヶ崎緑地でのイベントを実現  
・夜の景観を演出し55,000人を動員

緑地一体にLED40万球を設置(北陸ソラNo.1)

### V 地域活性化への貢献

○北陸新幹線敦賀開業(H34年度末)に伴う観光客の受け皿として機能させ、新幹線整備効果を最大に高める。

### 3. 金ヶ崎周辺整備構想 ～敦賀ノスタルジウム～

#### (1) コンセプト

## ～敦賀ノスタルジウム～

### ノスタルジー

#### 古き良き時代を感じ取る

- 敦賀の最も輝かしい時代を感じ取ることができ、異国情緒を味わうことができる空間。

### ミュージアム

#### 金ヶ崎全体が博物館

- 港と鉄道の資源を有効活用し、史実を後世に伝え知的好奇心を満たすことができる空間。

#### (2) 整備構想の考え方

- 市民の願いである居心地の良い空間づくり、市民意見の反映。
- 恵まれた地域資源の活用(既存の建造物、人道の物語、自然・歴史資源)。
- 「鉄道」と「港」をテーマに、明治後期～昭和初期頃の時代を意識。
- 民間活力の導入による賑わい創出促進。

# 3. 金ヶ崎周辺整備構想 ～敦賀ノスタルジアム～

## (3) 将来イメージ図





# 3. 金ヶ崎周辺整備構想 ～敦賀ノスタルジアム～

## (4) 整備の方向性

### 古きよき時代を感じるゾーン

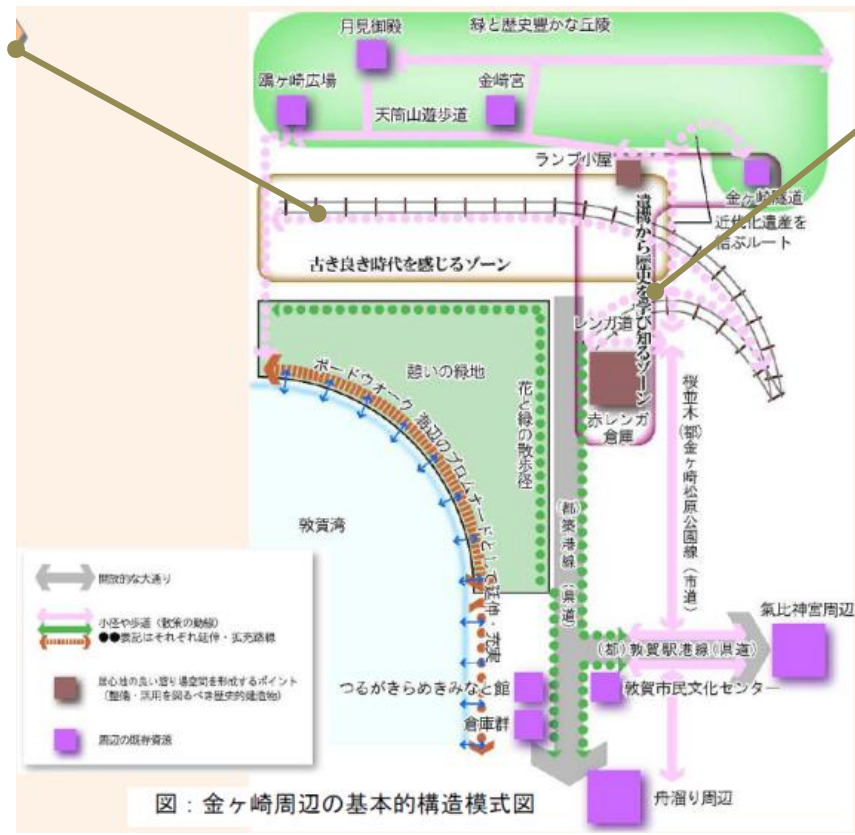
- 金ヶ崎の最も輝かしい時代、そして人道の港敦賀を象徴する場所。

### 遺構から歴史を学び知るゾーン

- 明治後期～昭和初期にかけての建築物や遺構で現存しているもの。

鉄道棧橋だった区域  
プラットフォーム  
乗降船場

赤レンガ倉庫  
ランプ小屋  
線路 等



図：金ヶ崎周辺の基本的構造模式図

### 3. 金ヶ崎周辺整備構想 ～敦賀ノスタルジウム～

#### (5) 計画検討と活動の経過

- ワークショップ 平成23年3月23日(水) 第1回  
平成23年4月27日(水) 第2回  
平成23年5月25日(水) 第3回
- 策定委員会 平成23年8月2日(火) 第1回策定委員会  
平成23年10月24日(月) 第2回策定委員会  
平成23年11月30日(水) 第3回策定委員会  
平成24年2月22日(水) 第4回策定委員会  
平成24年4月26日(木) 第5回策定委員会
- 市民シンポジウム 平成24年1月28日(土)
- 「敦賀・鉄道と港」歴史研修会 平成24年10月20日(土)
- つるが「鉄道と港」フェスティバル 平成24年より毎年開催

# 3. 敦賀市と金ヶ崎周辺地区の課題

# 1. 敦賀市の課題

## 観光客の 認識の不足

- 敦賀市と言えば「ここ！」と言える観光資源が、外部からは見えてこない(特に首都圏)。
- 敦賀市に行けば何があるのか、どんな楽しみがあるのか、多くの人は敦賀市をよく知らない。



## エリア間の連携が 不十分

- 既存の観光資源を結びつける取り組みは発展途上の段階。
- 二次交通アクセスが不便で、エリア間の往き来が不便。
- 既存の関連施設の機能や、その魅力はそれぞれ限定的。

## 2. 金ヶ崎周辺地区の課題

### 古き良き敦賀の イメージが見えない

- 明治時代から戦前の、往時を偲ぶ資源はいくつも点在するが、それらは点に過ぎない。
- 日本海側拠点港として係留施設や荷さばき施設が整備されたため、全体的にはノスタルジックな雰囲気を感じにくい。



### 金ヶ崎周辺を巡る しかけに乏しい

- 大型トラックの交通量が多い県道敦賀港線やコンテナ置き場等、殺風景な場所が多い。
- 実際以上の距離感を感じる。
- 金ヶ崎地区を散策していても目に見える景色に乏しく、まち歩きの動機が得られにくい。



### 3. 人道の港敦賀ムゼウムの課題

## メッセージを伝えるためのコンテンツの不足



- 敦賀は戦時中に空襲を受けたこともあり、当時の出来事を伝える**実物資料が少ない**。
- 人道の港のエピソードに関する資料を調査し、展示(実物)資料を更に増やす必要がある。
- また、ユダヤ人難民の受入から既に80年近く、ポーランド孤児上陸からは100年近く経過し、**当時の出来事を体験した人も少なくなってきた**。



### 3. 人道の港敦賀ムゼウムの課題

## 観光客を受け入れるスペースの不足



- 建物が手狭で、展示は窮屈な印象を受ける。
- 団体利用には絶対的なスペースが不足。一度に40人程度を受け入れるとキャパオーバー。
- 現在、学習利用は、きらめきみなと館で事前レクチャーをした上で利用している。
- 施設の性格上、外国人の来訪も多いが受入体制が不十分。
- バリアフリー化も十分ではない。

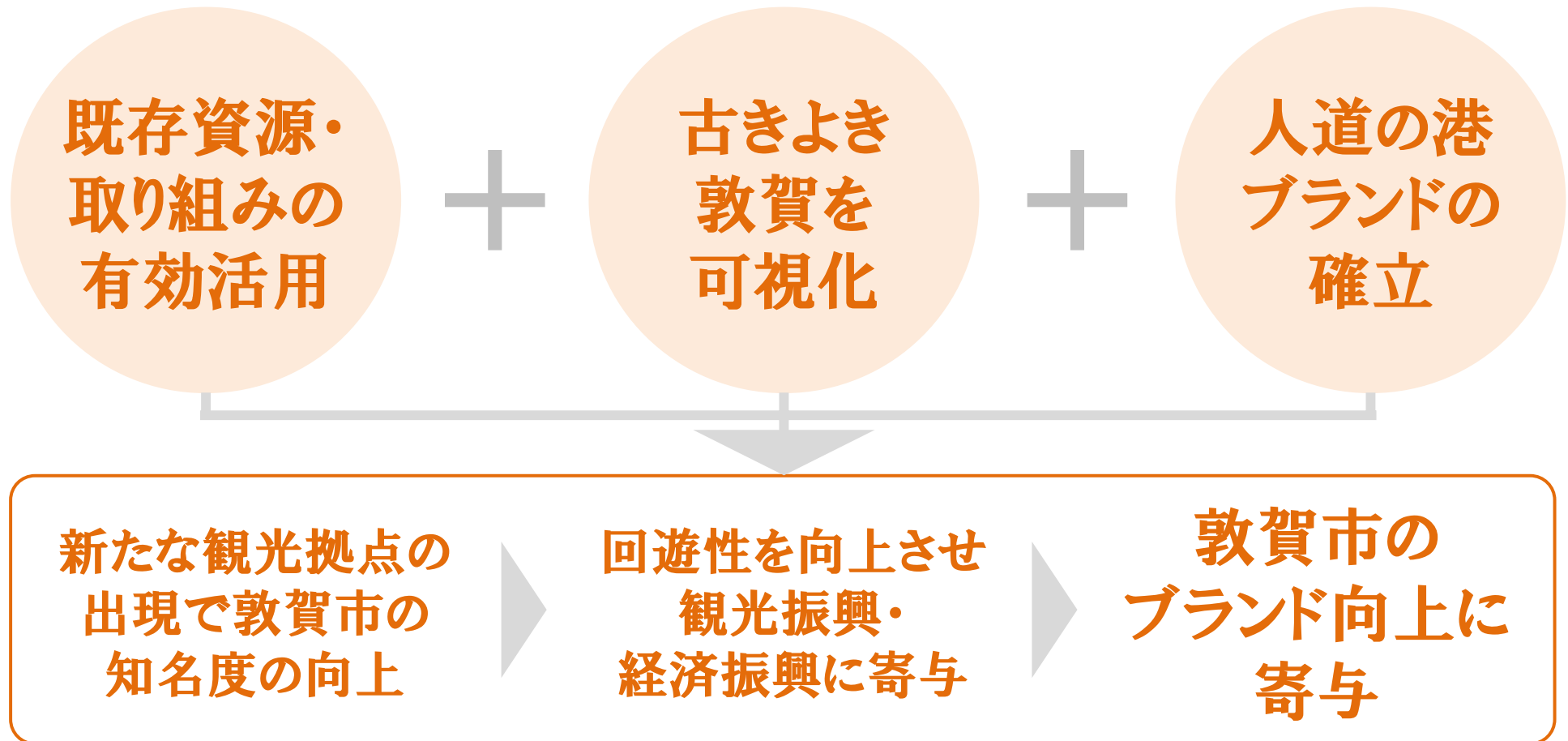
# 4. 基本方針



# 1. 基本的な考え方

## (1) 整備事業の目的

敦賀だからこそ表現できる、ノスタルジックな景観の中で  
「命」と「平和」の尊さを考える、ストーリーと場を実現



# 2. 整備方針

## 方針1 既存資源・取り組みの有効活用

### (1) 遺構の有効活用

- 既に整備された赤レンガ倉庫やランプ小屋に加え、放置状態の敦賀港線の線路等、鉄道遺産や港湾遺産等、まず、あるものは有効に活用していく。

### (2) 取り組みの発展拡張

- つるが「鉄道と港」フェスティバルをはじめとする、「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会の数々の取り組みに磨きをかけていく。
- 市民の機運を醸成し、中長期的に人材を育成、担い手を育てる。

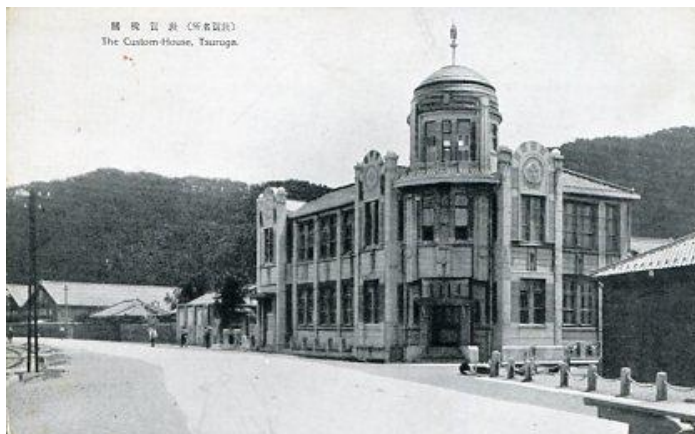
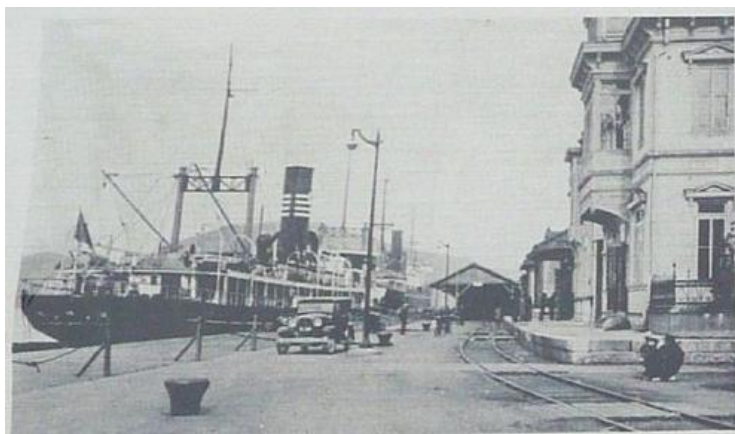


## 2. 整備方針

### 方針2 古きよき敦賀を可視化

#### (1) 景観づくり

- 明治～昭和初期を意識してエリア全体の修景を検討する。
- 不足する景色は補い、視界全体でノスタルジックな雰囲気に入れるようにして、敦賀の古き良き時代を解りやすく伝える。



#### (2) ストーリーづくり

- 金ヶ崎ならではのストーリーを提供して、ムゼウムをはじめとする点(資源)と点をつないで面で魅力を高める。
- エリアを巡らずにはいられなくなるようにする。

## 2. 整備方針

### 方針3 人道の港ブランドの確立

#### (1) やさしい人がいた街

- 敦賀の最も輝かしい時代に、市民は暖かく難民を受け入れた。この事実が輝きを増す。
- 「ノスタルジー」×「人道」は、敦賀だけの、他の港湾都市では真似のできないストーリー。

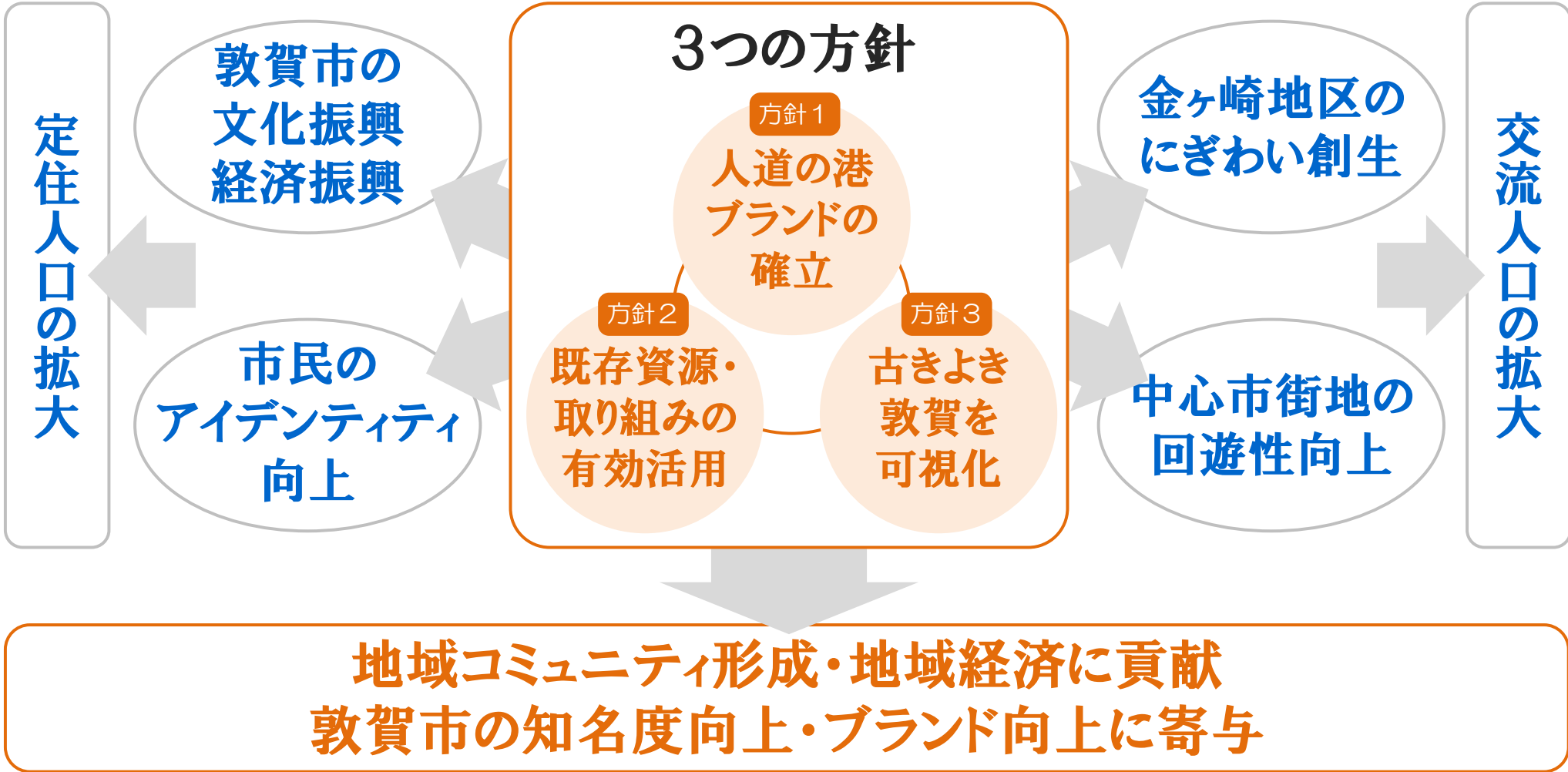
#### (2) 命と平和の大切さ

- 敦賀の史実を通し、「命」の尊さ、「平和」の大切さを伝え、考えてもらう機会を提供する。
- 東アジアの緊張、中近東や欧州の混乱等、現在の世界情勢が不安定だからこそ意義がある。



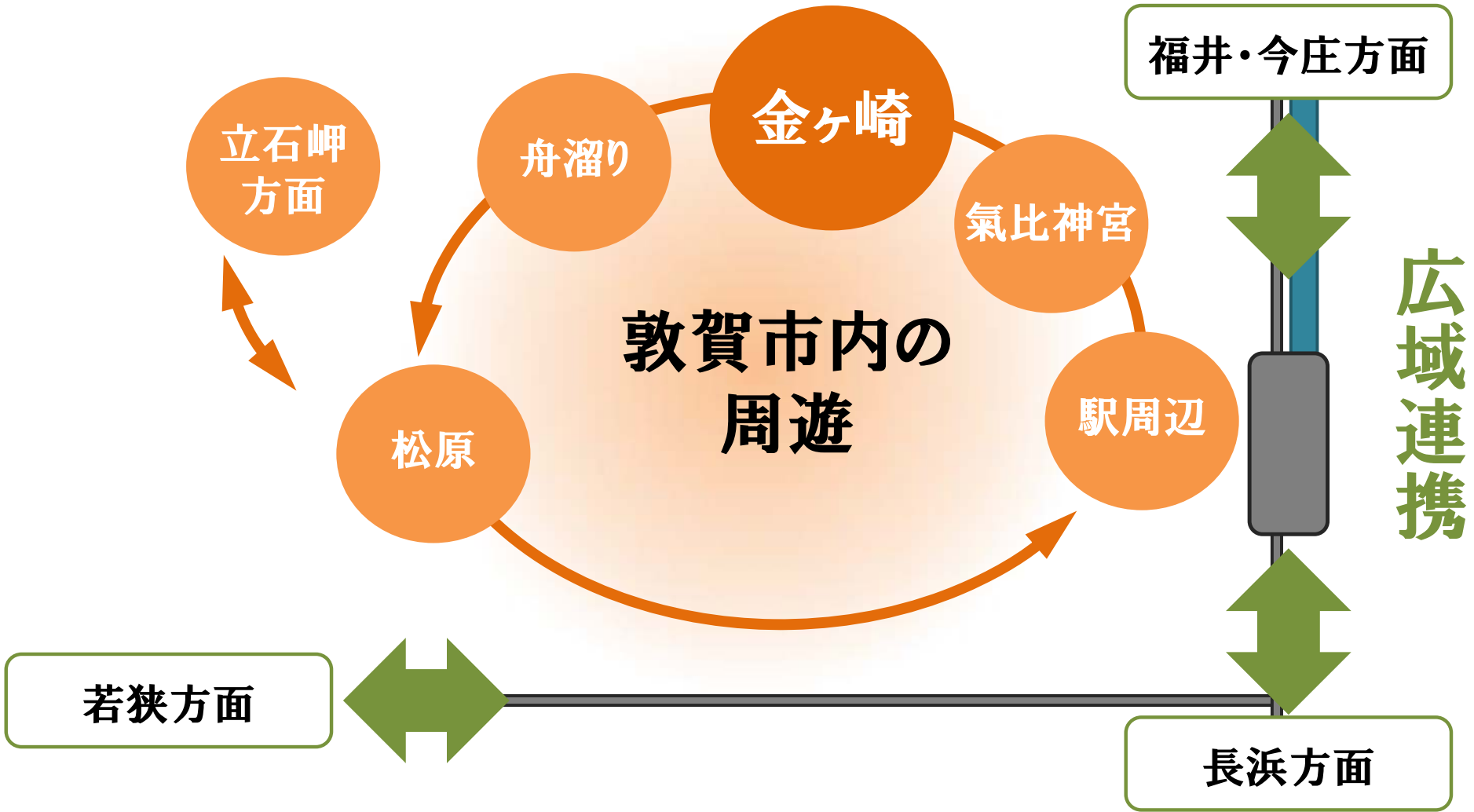
# 3. 整備の効果

金ヶ崎を訪れること自体が目的となるような、「圧倒的な存在感」を示すストーリーをかたちづくる



### 3. 整備の効果

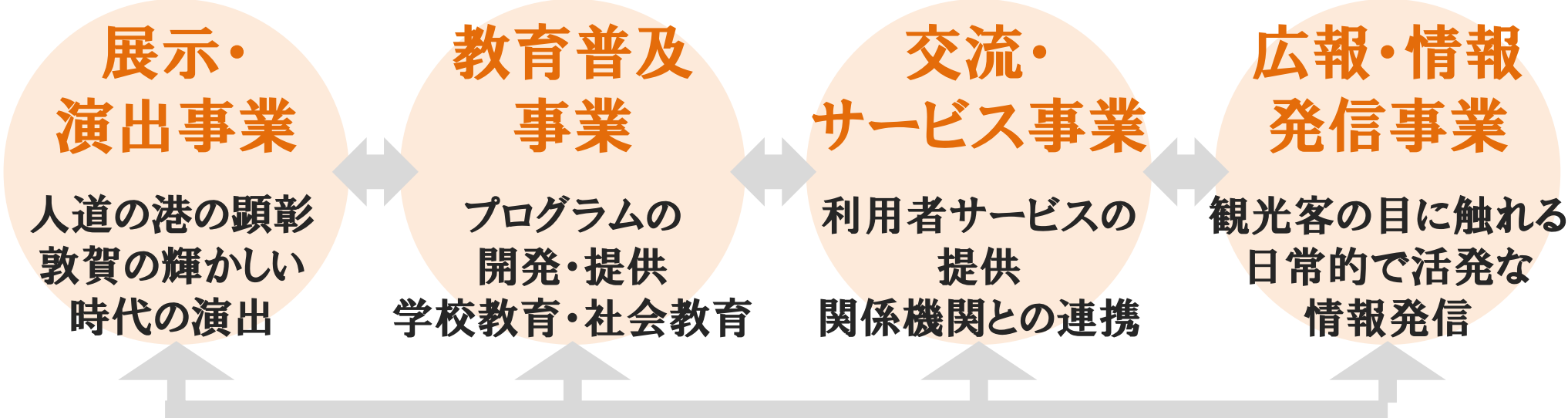
金ヶ崎周辺地区のにぎわい形成により  
市内の観光資源がつながる。広域連携へ広がる。



# 4. 展開する事業

資料や情報は蓄積して、中核事業拡充を下支え

## (1) 中核として展開する事業



## (2) 下支えする事業

**収集保存  
調査研究事業**  
コンテンツやプログラムを  
開発し、提供するための  
資料・情報の蓄積

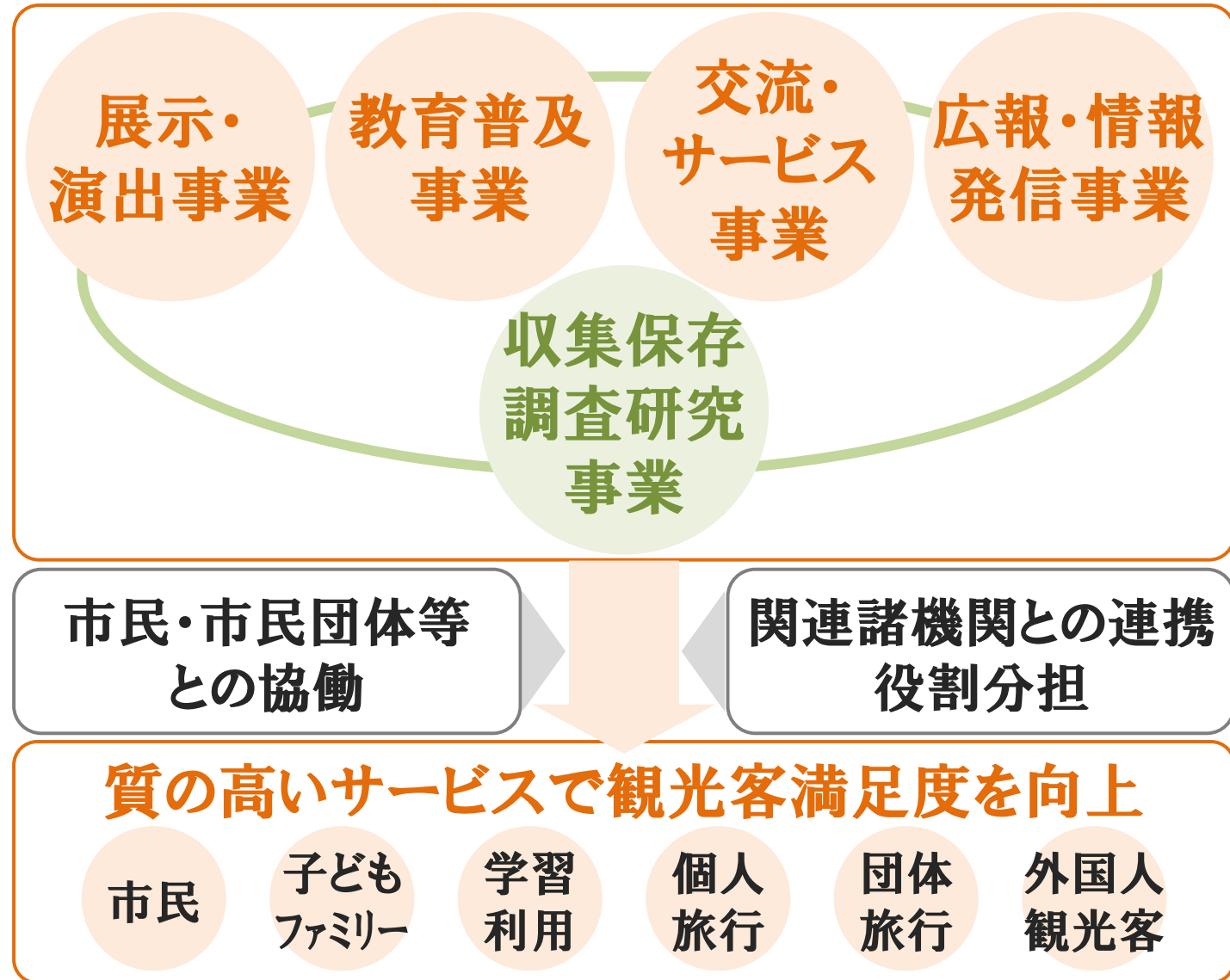
# 5. 事業計画



# 1. 基本的な考え方

## 協働・連携により、人道の港ブランドを確立・拡充

- 金ヶ崎周辺地区は、敦賀市の新たなシンボル地区として、敦賀市観光の中心的な役割を担い、敦賀市を訪れた観光客をもてなす。
- そのため、市民協働や関係機関との協働・役割分担を行いながら人道の港ブランドの確立・拡充を行っていく。



# 1. 基本的な考え方

## 多様な属性の観光客に向け、きめ細やかに諸事業を展開

### まずは市民に 愛される

- 市民に愛される施設にこそ多くの人を訪れる。
- 市民がいつでも気軽に立ち寄れる活動を展開する。

### 来訪の少ない層を 取り込む

- 関西・中京圏の観光客を大切にしつつ、これまで来訪の少ない関東圏の観光客や海外の観光客を呼び込む。

### 何度でも 来てもらう

- 敦賀の多様な魅力を知ってもらい、金ヶ崎や他地区へも、また来たいと思ってもらえるようにする。

# 1. 基本的な考え方

ターゲットごとの興味を分析し、真に求められる事業を展開

## 敦賀市民

- とにかく居心地が良い。
- いつ来ても誰かに会える。
- ここへ関わることで仲間ができる。やりがいを持てる。

## 国内観光客

- 居心地が良い。休憩できる。
- 珍しいものが見られる、体験できる。楽しい思い出ができる。
- 日本人の美徳を改めて知る。

## 子ども(学習旅行)

- 学校や家庭では出来ないような遊びや体験ができる。
- 道徳・歴史(郷土史)・平和教育等の教材として(教員側)。

## 海外観光客

- 命と平和の大切さを深く知る。
- 日本らしいおもてなし。
- 都会とは違う、日本の文化や食に触れることができる。

## 2. 収集保存・調査研究事業

### 人道の港ブランドの源泉となる資料や情報を蓄積・研究

#### (1) 情報を集約し未来へ継承

- ポーランド孤児やユダヤ人難民に関わる資料(実物・写真・映像・音声等)や情報を収集し蓄積する。
- 近代の敦賀港湾史や鉄道史の資料や情報も収集する。
- 市民等へ向けヒアリングを行い情報を収集する。
- 福井県や国に働きかけ、公文書等の資料や情報を収集する。
- 海外の資料・情報も収集する。



例えば、命のビザのユダヤ人の子孫へコンタクトをとり、ヒアリングして情報収集する



近代の港湾遺産や鉄道遺産の資料や情報も収集



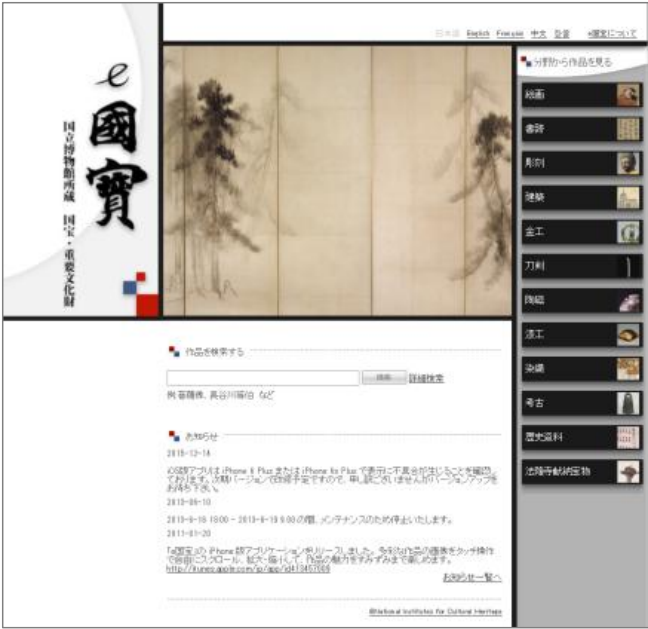
ホロコースト博物館（ワシントンD.C.）等、海外へも情報収集

# 2. 収集保存・調査研究事業

## 人道の港ブランドの源泉となる資料や情報を蓄積・研究

### (2) 活動の成果を事業に反映

- 収集・保存する資料・情報は使いやすいようにデータベース化。
- 関連諸機関との連携や、市民・市民団体の参画と協働により調査研究を行う。
- 活動の成果は、展示や教育普及の事業活動に反映するとともに、出版物やホームページ等を通して広く一般に公開していく。



e国宝  
国立博物館所蔵 国宝・重要文化財検索システム



すみだ北斎美術館  
全資料横断検索システム

# 3. 展示・演出事業

## 往時の雰囲気の中で、命や平和の大切さを考える

### (1) 人道の港の顕在化

- ポーランド孤児やユダヤ人難民の軌跡と、敦賀市民との交流の逸話を紹介する。
- なぜ彼らは敦賀港を經由したのか、日本における近代の敦賀港の役割や、当時の国際情勢等を紹介する。
- 収集保存・調査研究の成果を基に、常に新しいコンテンツを開発して利用者に提供する。



当時の世界情勢等、歴史的背景をより詳しく紹介



更新性の高い展示設備を導入して、常に新しいコンテンツを提供

# 3. 展示・演出事業

## 往時の雰囲気の中で、命や平和の大切さを考える

### (2) 敦賀の輝かしい時代を演出

- 東洋の波止場と謳われ、欧州からの日本の玄関口として、国際物流・人流を支えた近代の敦賀港の雰囲気を具体的に目に見える形で再現する。
- これまでの取り組みを拡充し、四季折々の演出を展開。
- 市民も観光客もいつ来ても異なる演出で楽しめるようにする。



鉄道と港で栄えた戦前の情景とにぎわいを目に見える形で再現

# 4. 教育普及・啓発事業

## 学校教育や社会教育のプログラムを開発・提供

### (1) 人道の港を市民へ伝える

- 学校と連携し、市内の小・中・高の子どもたちに敦賀の輝かしい時代と、博愛の精神を知ってもらうプログラムを立案・実施する。
- 講座・講演・説明会等、市民にもよく知ってもらうプログラムを立案・実施する。
- 活動の担い手育成に関するプログラムを立案・実施する。



福井こども歴史文化館の教育普及活動  
(福井の先人や歴史を楽しんで体験できるプログラム)



戦争体験談を語り合う



ボランティア活動



## 4. 教育普及・啓発事業

### 学校教育や社会教育のプログラムを開発・提供

#### (2) 学習旅行や観光客へ伝える

- 多様なニーズに応じたプログラムを立案・実施する。
- 県内・近隣県の社会科見学や、首都圏等、遠隔地の修学旅行の受入を行う。
- 団体観光客の受入を行う。
- 多くの個人観光客を受け入れるため細かなニーズに対応できるようにする。
- インバウンドへも対応する。



学習旅行やインバウンド向けボランティア解説  
(広島平和記念資料館・平和記念公園)



4カ国語対応シアター  
(大坂城天守閣)



3カ国語映像解説(日英中)  
(立山博物館)

# 5. 交流・サービス事業

## 施設利用を促す利便性の提供と多彩なイベント展開

### (1) 利用者への利便性提供

- カフェやショップ等、市民や観光客への楽しみを提供する。赤レンガ倉庫や民間施設と相乗効果が生み出せるようにする。
- 無料で居心地良く休憩できるようにする。
- 駅前や他の地区と連携しながら街あるきガイドのサービスを提供できるようにする。
- 手話や通訳等、あらゆる観光客をおもてなしできるようにする。



国立新美術館ミュージアムショップ(国立新美術館HP)



三菱一号館美術館カフェ  
明治27(1894)年の当時の図面等により忠実な復元  
(三菱一号館美術館HP)



山居倉庫。旧建築をリノベーションしたサービス空間  
(山形県観光物産協会HP)

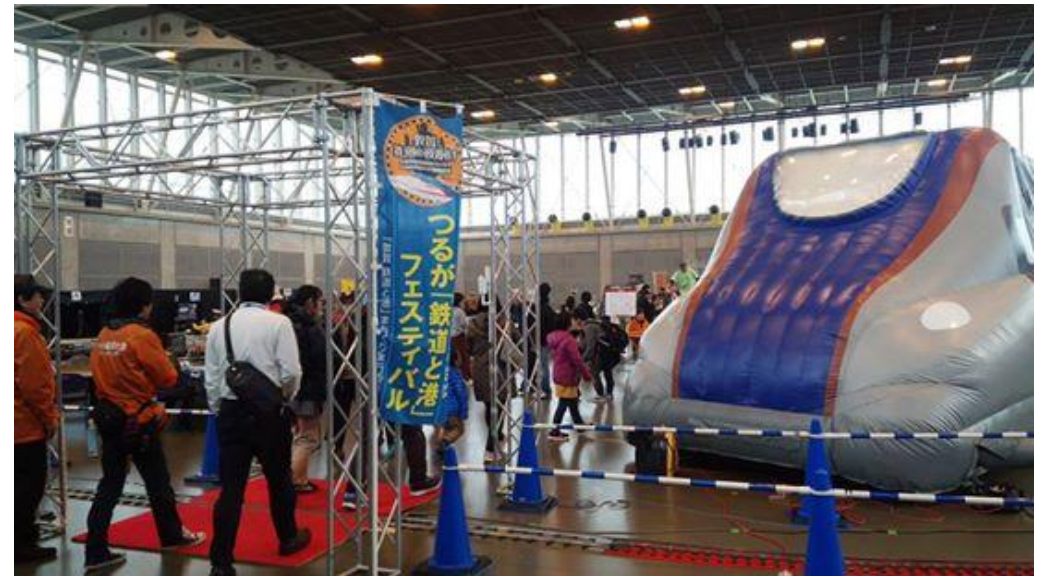


# 5. 交流・サービス事業

## 施設利用を促す利便性の提供と多彩なイベント展開

### (2) 市民と盛り上げるイベント

- 敦賀の輝かしい時代を再現した舞台を活かし、様々なイベントを企画し、年間を通して実施する。
- まずは市民が気軽に楽しめるイベントを展開する。
- 参加する市民の協力を受けて大規模イベントを定期的開催。敦賀と言えば「〇〇」とイメージできるような、知名度の高いイベントへみんな育て上げる。



例えば、鉄道フェスティバルやミライエは、大正時代のコスプレで参加する等して参加性や話題性を高める

# 6. 広報・情報発信事業

## 観光客の目に触れる日常的で活発な情報発信

### (1) インターネットの効果的活用

- ホームページやSNSを充実させ、日常から活発に情報発信を行う。
- “パブネタ”を常に提供し、マスコミやネットで金ヶ崎地区が取り上げられやすいようにする。
- “いいね！”をたくさんつけてもらい、クチコミで金ヶ崎地区の存在が広がっていくようにする。
- インバウンドに向け、情報発信は多言語化する。



「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会のFacebookブログやTwitter等、SNSをフル活用して日々の情報を発信できるようにする

日本最大のミュージアム・ポータルサイト「インターネットミュージアム」特集ページを組んで多くの人にムゼウムを中心とする金ヶ崎を知ってもらう

# 6. 広報・情報発信事業

## 観光客の目に触れる日常的で活発な情報発信

### (2) ターゲットごとに情報を提供

- 居住地や趣味、性別や世代等、**細かくターゲットを設定**するとともに、ニーズを分析した上で情報を提供する。
- 常にターゲットを意識し、プログラムやイベントを立案するとともに、それらに向けた**きめ細やかな情報発信**を行う。

様々なジャンルのファン層に向け、敦賀オリジナルのツアーを企画して売り込む



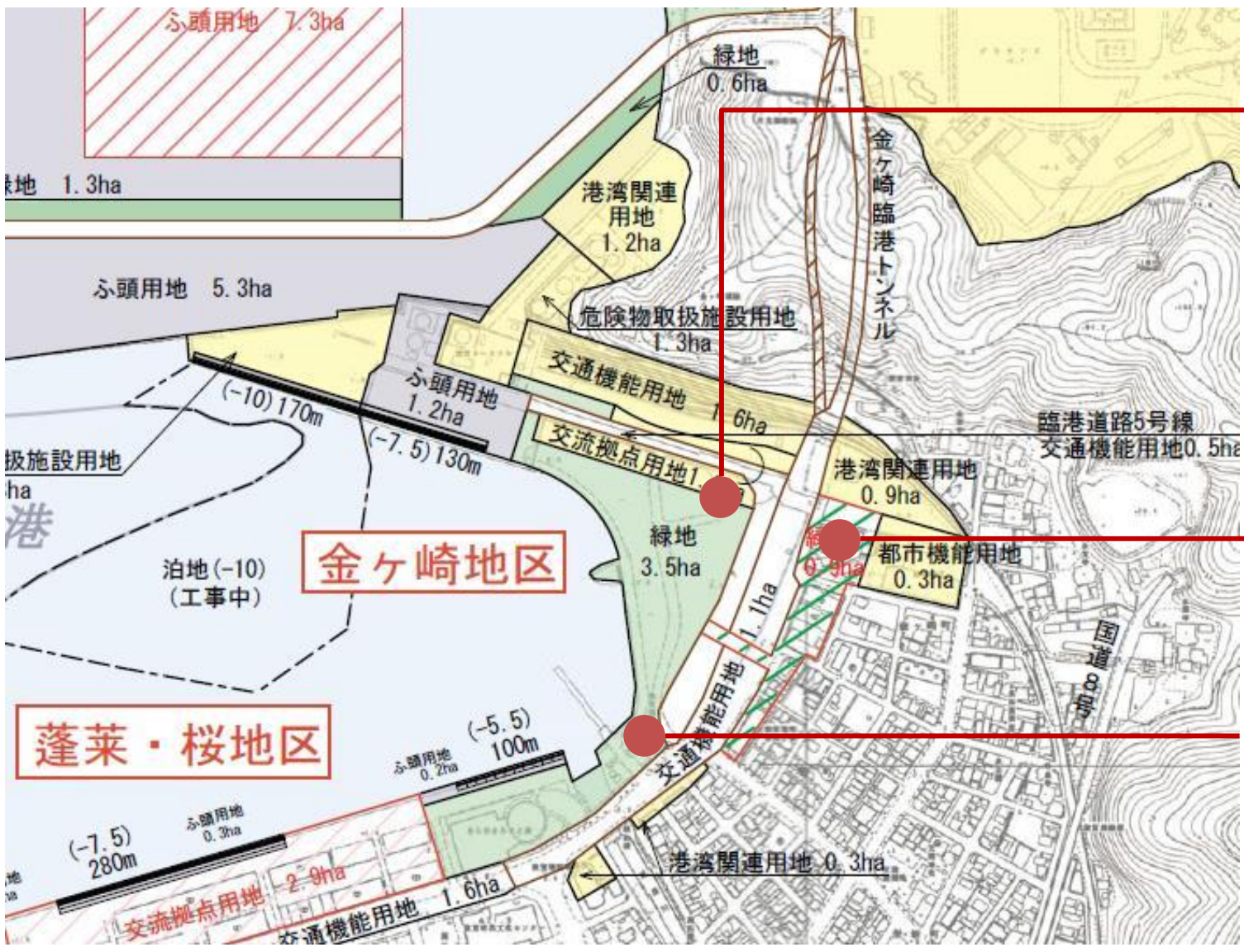
台東区は、89言語でホームページの閲覧が可能



## 6. 金ヶ崎周辺地区の機能計画

# 1. 敷地の概要

## (1) 現況図



人道の港  
敦賀ムゼウム

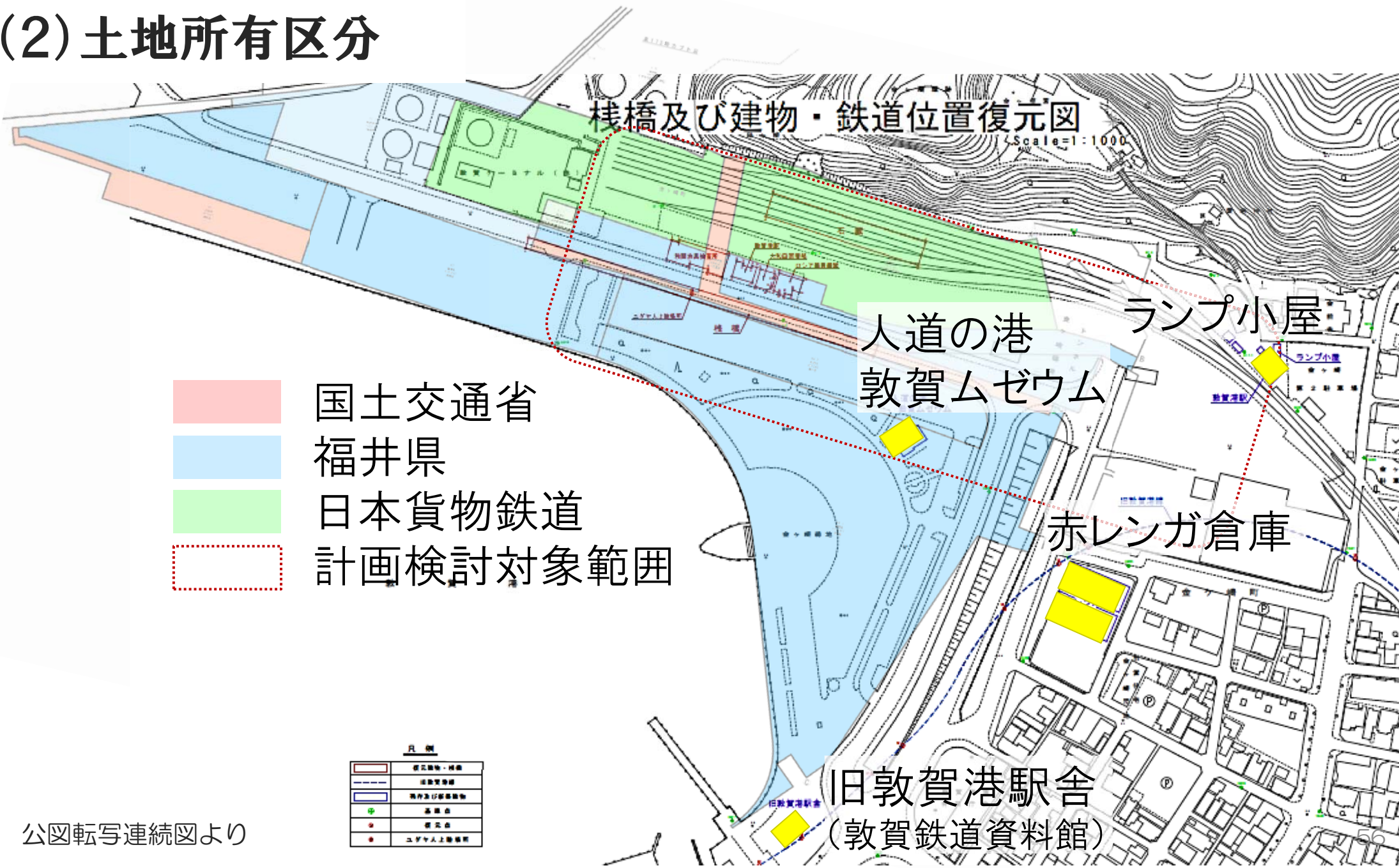
赤レンガ倉庫

旧敦賀港駅舎  
(敦賀鉄道資料館)

敦賀港港湾計画図

# 1. 敷地の概要

## (2) 土地所有区分



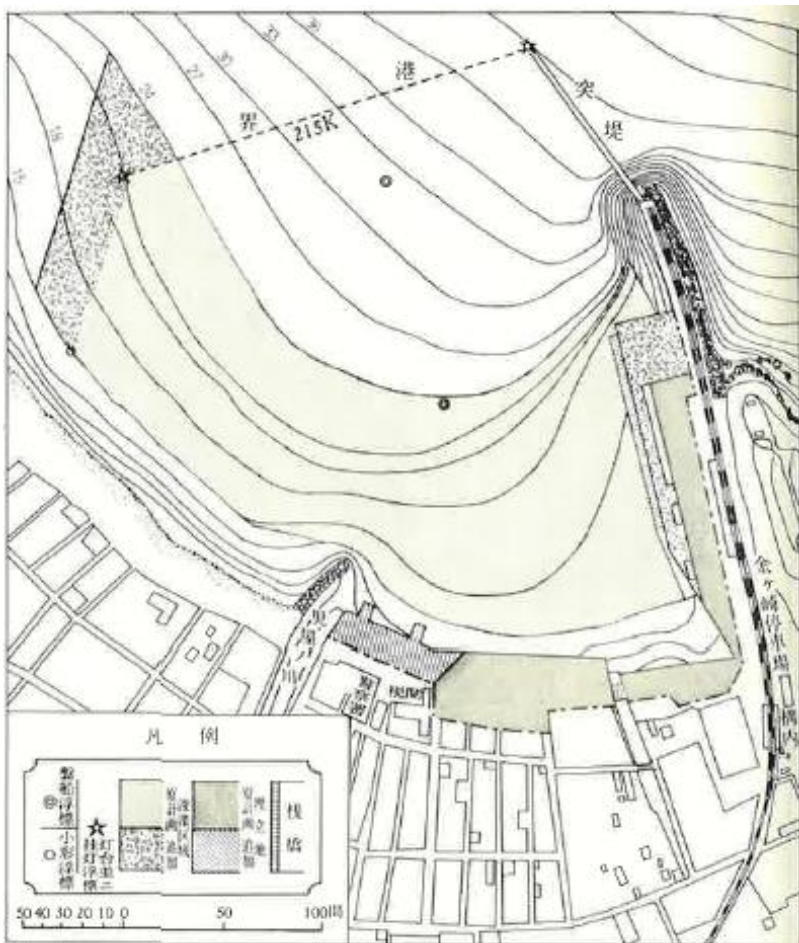
公図転写連続図より



# 1. 敷地の概要

## (3) 海岸線の変化(大正初期)

- 大正2年に竣工した第一期港湾修築工事以後の古写真。現在では、埋め立てにより当時の景観は失われている。

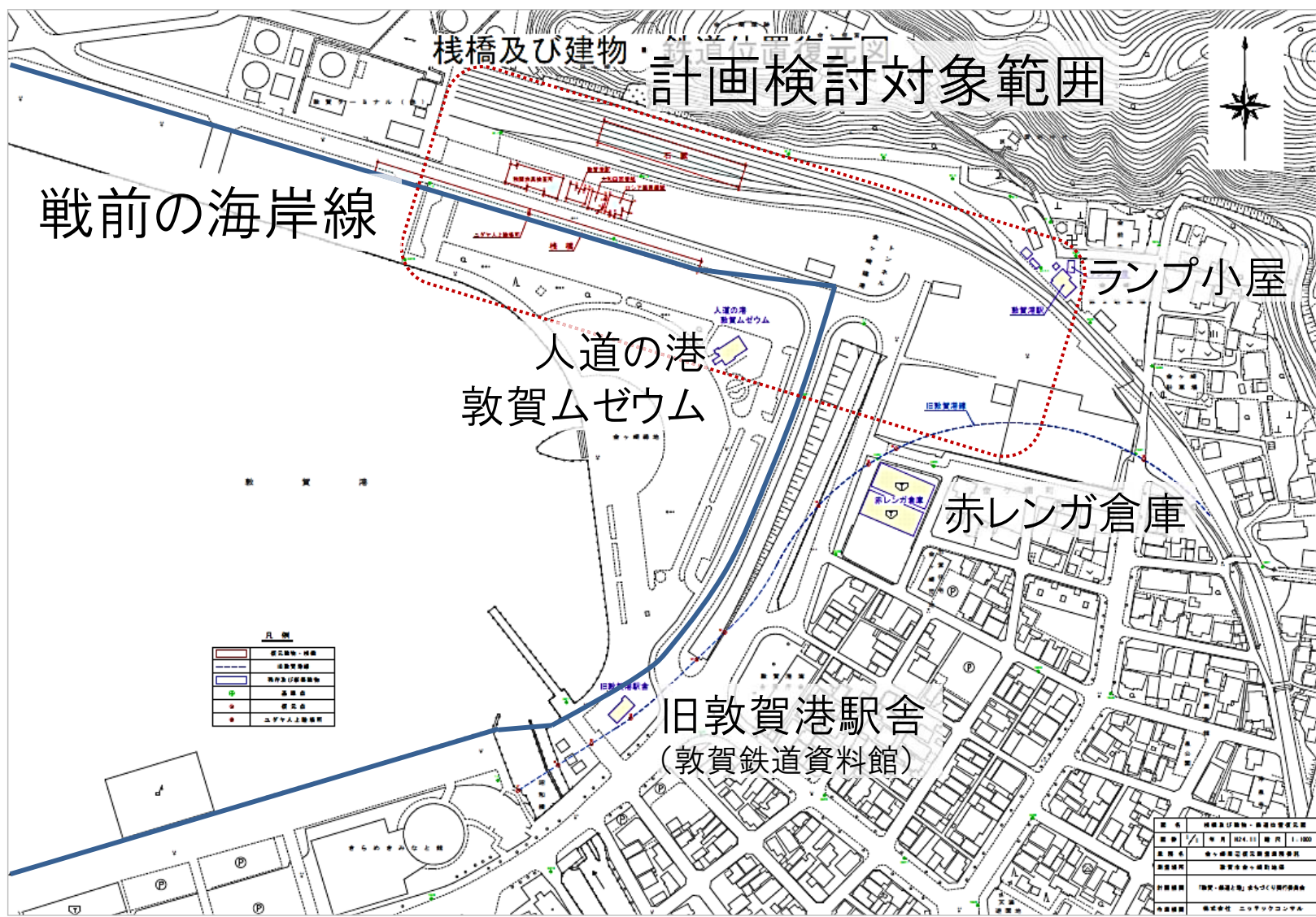


写真：大正時代の敦賀港（敦賀みなと振興会HP）

図：第一期港湾修築図（「敦賀市史 通史編下巻」）

# 1. 敷地の概要

## (4) 海岸線の変化(現在)



## 2. 整備方針

### 古き良き雰囲気の中で、平和と博愛を考える場の提供

#### (1) 金ヶ崎地区全体の整備方針

- まずは地区全体を市民が気軽に利用できるようにする。
- 周辺との一体的な整備により景観を整える。
- 既存資源を活かし、それらの間を楽しく散策できるようにする。
- 古き良き敦賀を可視化するため、失われた建築物・建造物等の復元を検討する。
- ボランティアや市民団体等の活動拠点となる機能を設ける。
- バスや乗用車の駐車場を確保して観光客の利便性を高める。

## 2. 整備方針

### 古き良き雰囲気の中で、平和と博愛を考える場の提供

#### (2) ムゼウムの整備方針

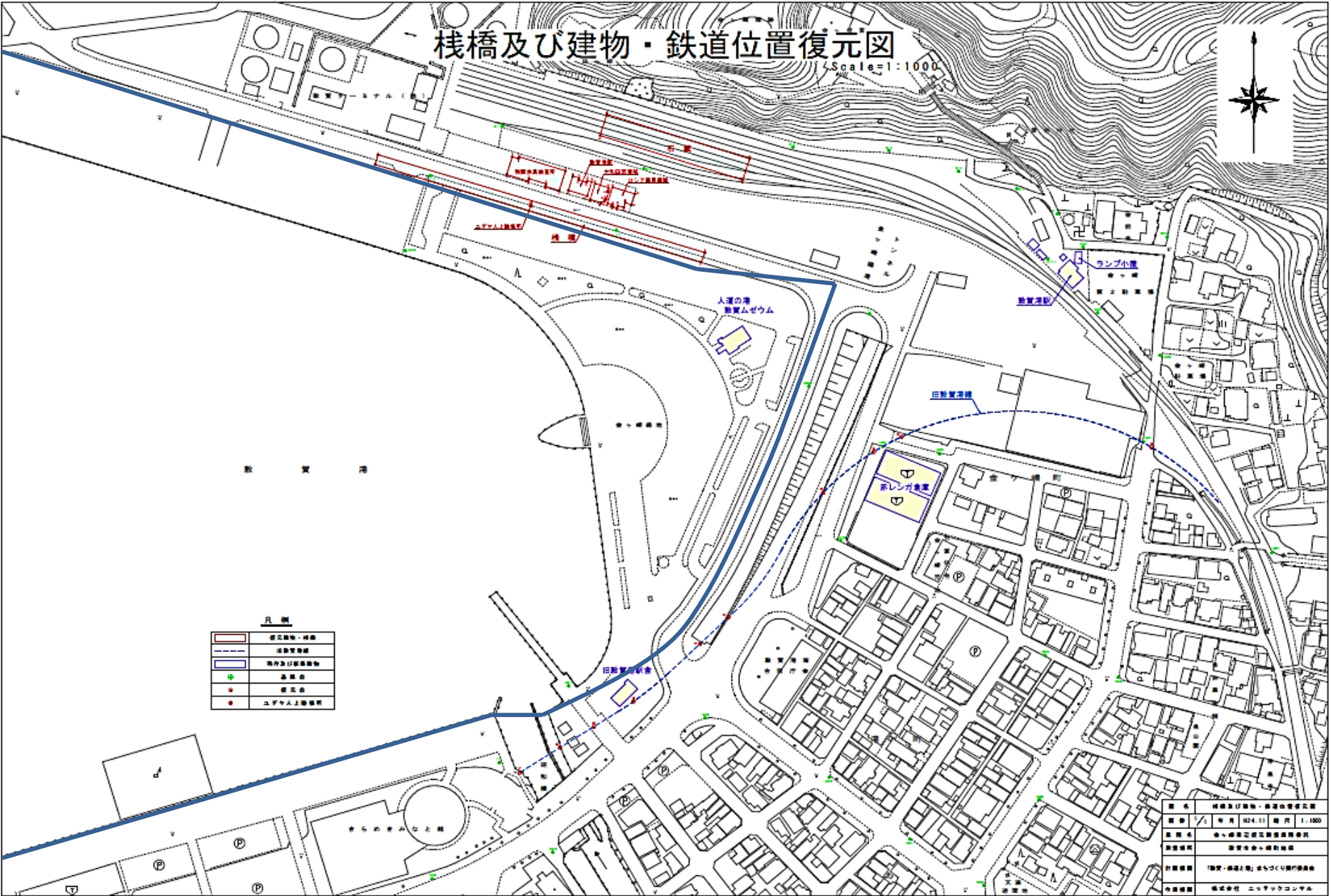
- 平和と博愛を考える場の中心的存在として、展示や教育普及等、十分な事業活動ができる規模を検討する。
- 学習旅行等、団体観光客を十分に受け入れられるようにする。
- 赤レンガ倉庫や鉄道資料館等、地区内の既存施設と役割分担し、相乗効果を生み出せるようにする。

#### (3) 鉄道遺産の整備方針

- ランプ小屋や軌道等、地区内の港線の既存設備を有効活用する。
- 敦賀駅から地区までの軌道の活用を検討し、市内の回遊性を生み出す。
- 敦賀駅の旧転車台を移転し活用する(車両展示も視野)。
- 北陸本線トンネル群等、市内外の鉄道遺産と連携できるようにする。

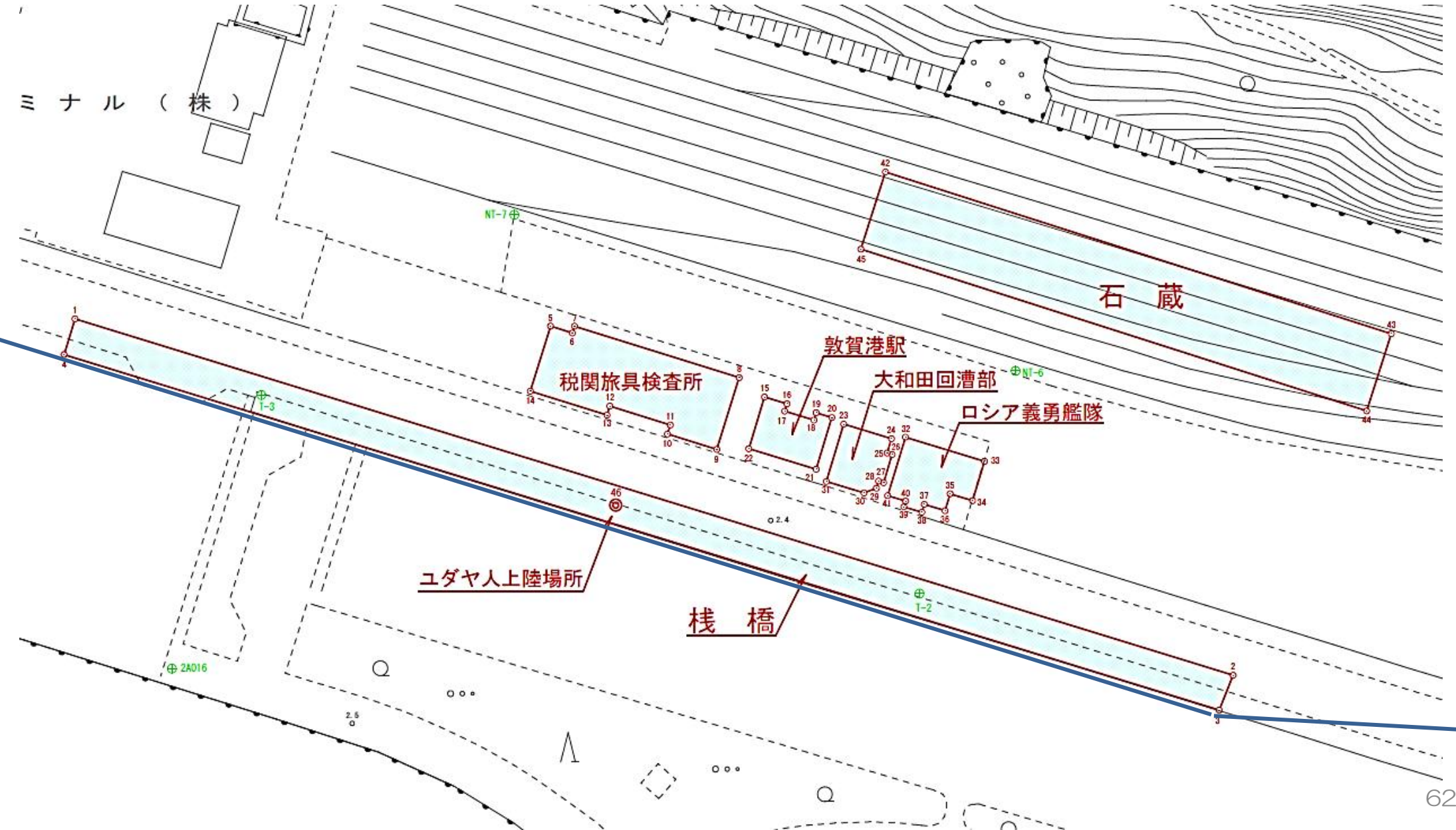
# 3. 配置計画

## (1) 金ヶ崎周辺整備構想時の配置計画



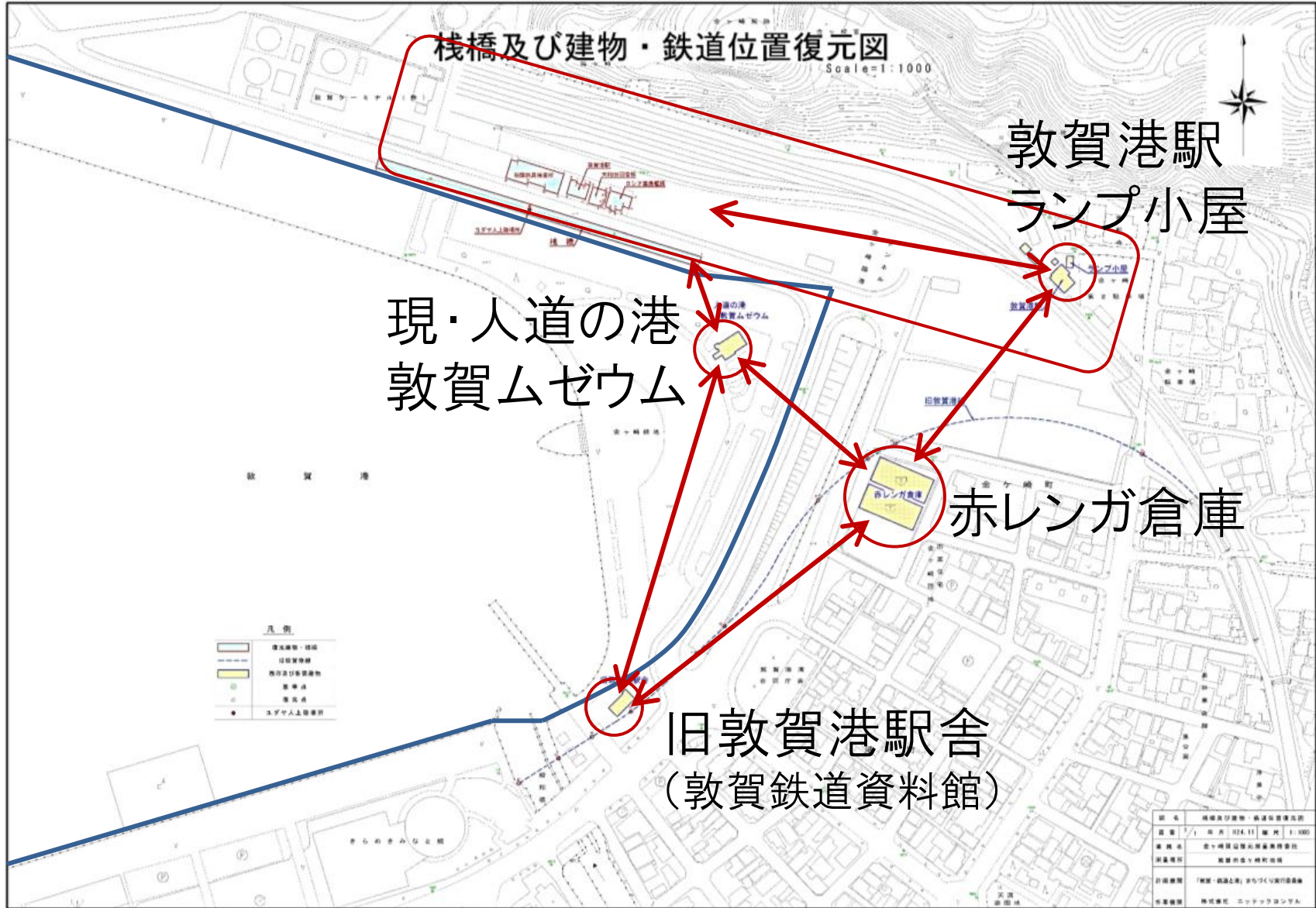
# 3. 配置計画

## (2) 金ヶ崎周辺整備構想時の配置計画(拡大)



# 3. 配置計画

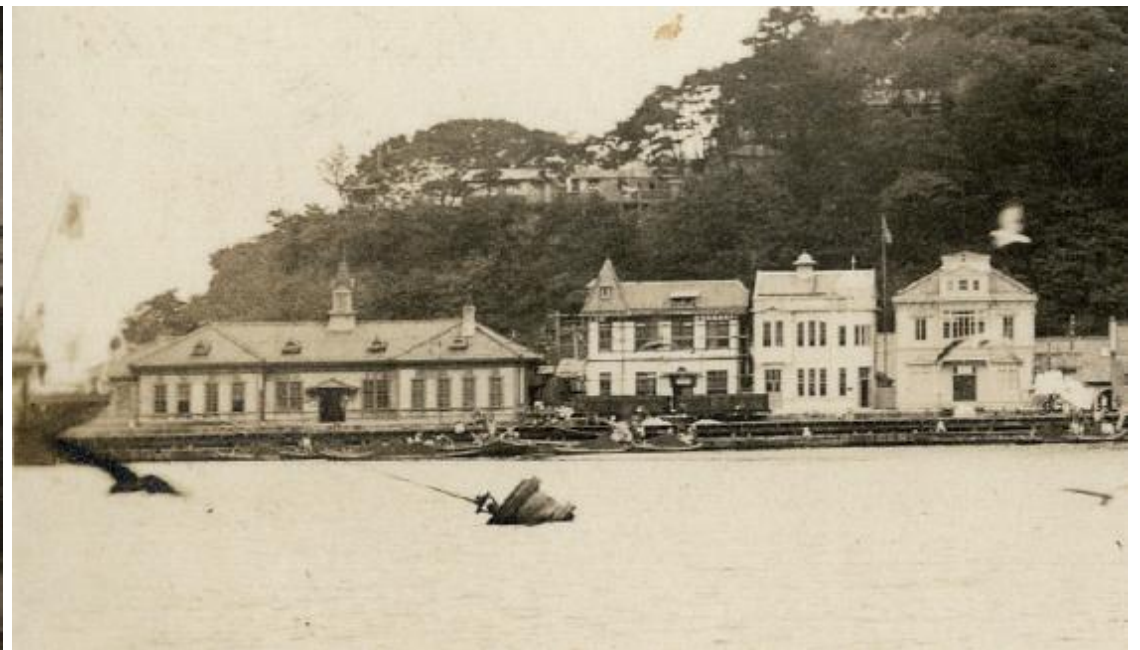
## 金ヶ崎の既存資源と一体的に整備し回遊性を高める



# 3. 配置計画

## (3) 景観の再現

- 敦賀の最も輝かしい時代を可視化するため、大正～昭和初期頃の敦賀港棧橋周辺の景観を再現する。
- 当面は建造物4棟を中心に、将来的に周囲の景観復元を検討。





# 4. 金ヶ崎周辺地区に必要な機能

## にぎわい形成とともに、人道の港ブランドを顕在化

### (1) にぎわい形成

- 敦賀の輝かしい時代の演出
- 国内外の観光客の受入とおもてなしの提供
- 国内外への広報・情報発信
- 個人旅行客への情報提供
- 地区全体で行うイベント
- カフェやショップ、多彩なアクティビティで楽しみを提供

### (2) 人道の港ブランド顕在化

- 資料の収集保存・調査研究
- 国内外の観光客へ向けた、展示・教育普及による命と平和の大切さの訴及
- 学習旅行の受入と教育普及

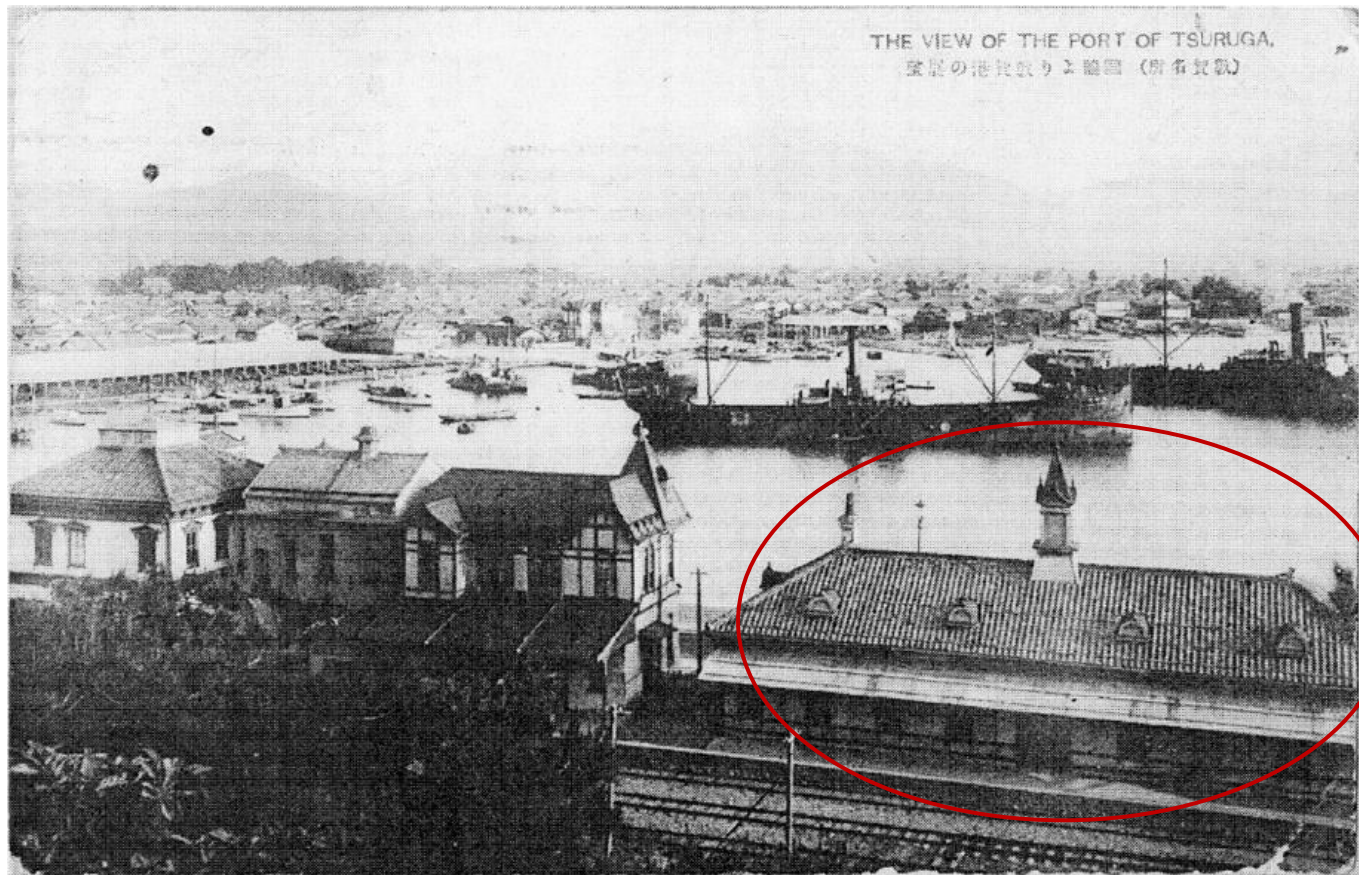
地区全体及び鉄道遺産の活用で担う

人道の港ムゼウムで担う

# 5. 復元する建造物

## (1) 税関旅具検査所

- 日本海側唯一の第一種重要港湾の重要な機関として、旅客の入出国を管理。

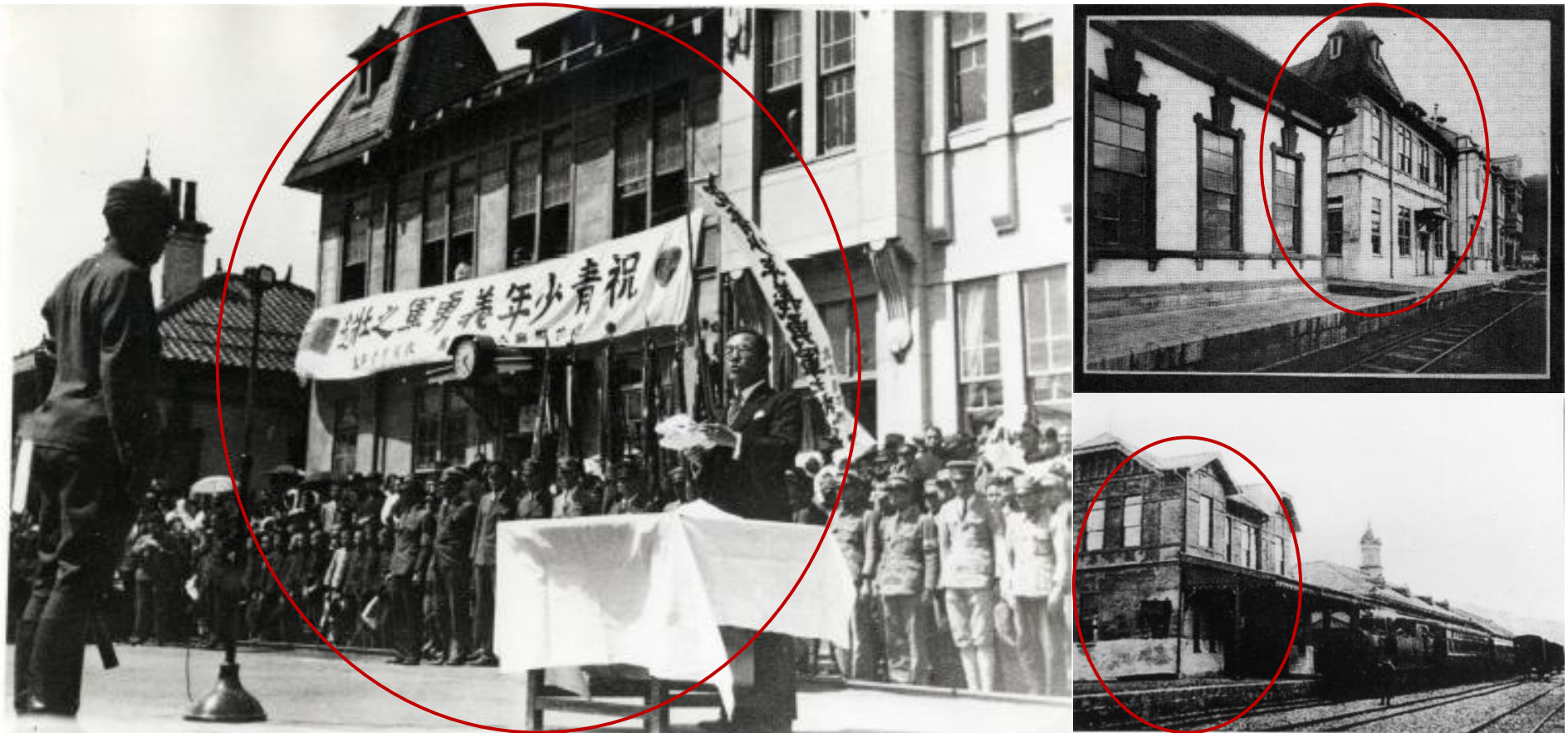


※正確な存在時期は不明

# 5. 復元する建造物

## (2) 敦賀港駅(旧金ヶ崎駅)

- 明治15年開設(金ヶ崎駅)。明治35年にウラジオストクとの間に直通航路開設、後に新橋間に欧亜国際連絡列車が運行。

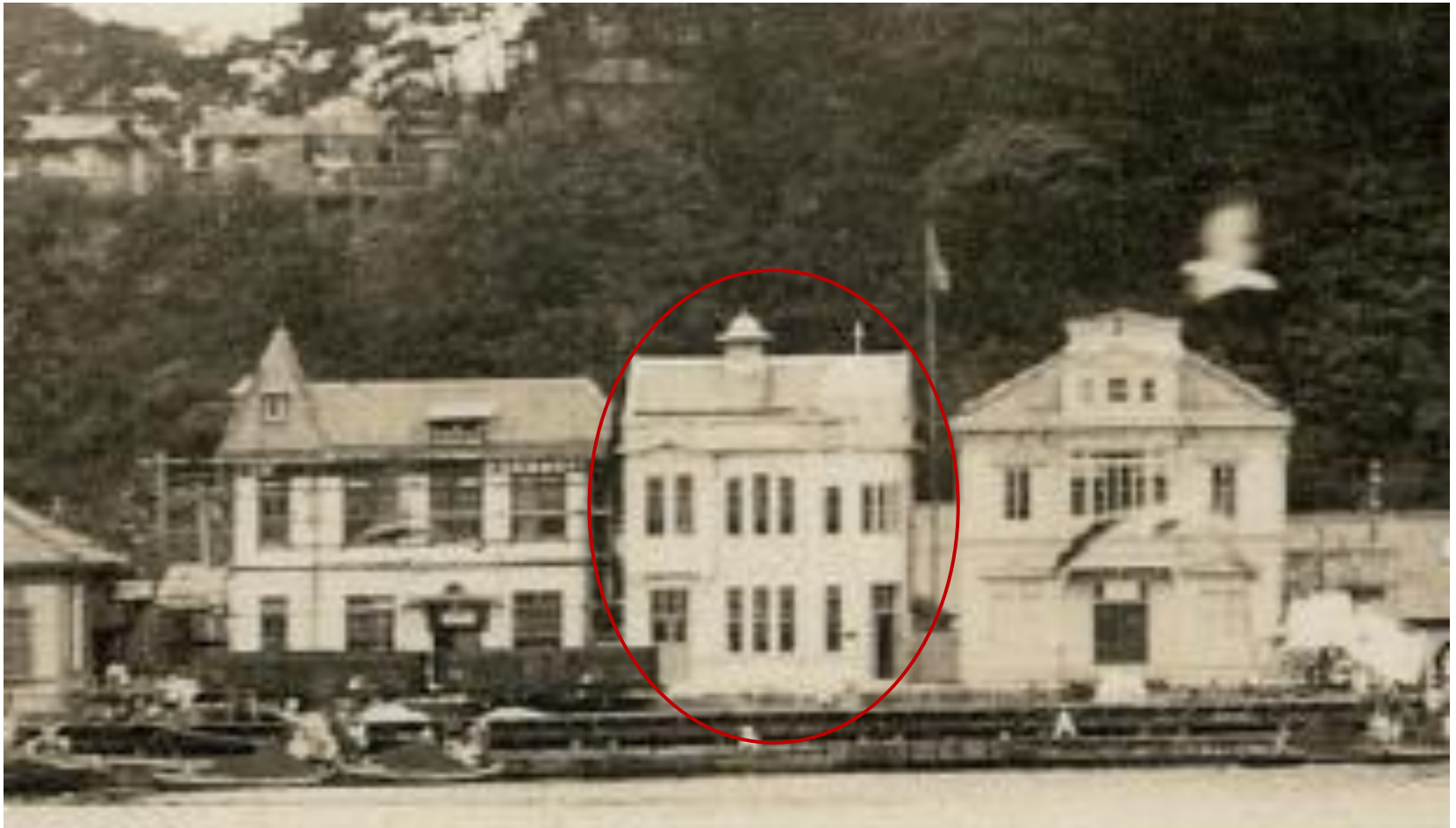


※現鉄道資料館(旧敦賀港駅舎)とは時代が異なる別の建物であることを留意

## 5. 復元する建造物

### (3) 大和田回漕部

- 大和田銀行創始者・大和田莊七により設立。大阪商船の代理店として敦賀の海運を支えた。

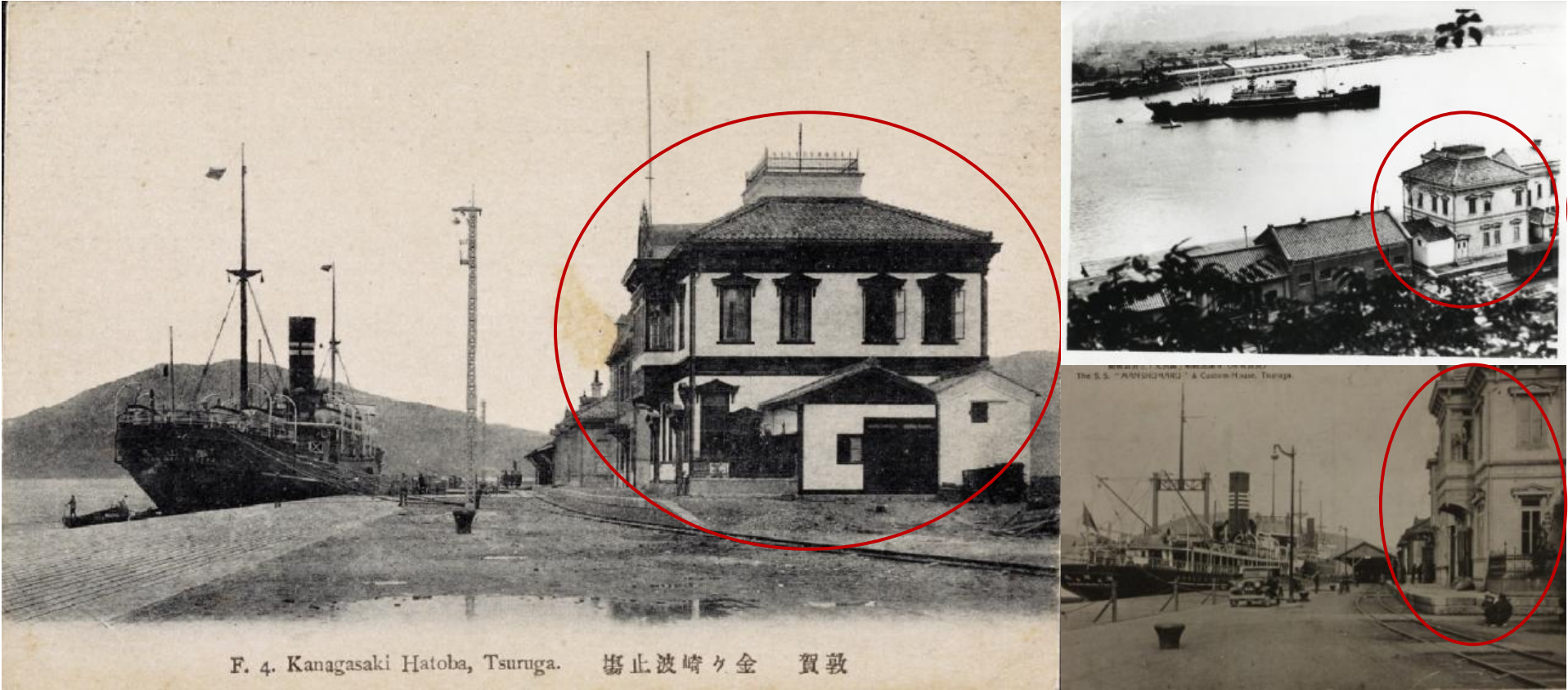


※正確な存在時期は不明

# 5. 復元する建造物

## (4) ロシア義勇艦隊

- 義勇艦は、平時は商船活動し、戦争時には補助艦艇として行動できる船舶。ロシア義勇艦隊はウラジオストク間に定期航路を開設し、敦賀港にも拠点を設けた。



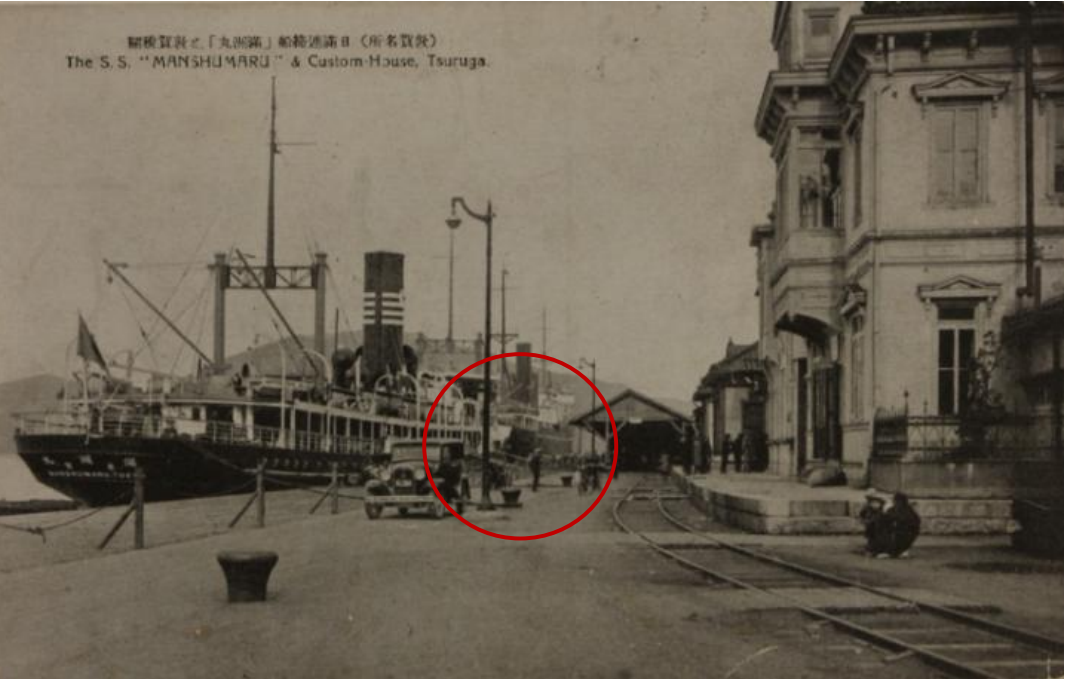
※正確な存在時期は不明

# 5. 復元する建造物

## (5) 棧橋

## (6) ユダヤ人上陸場所

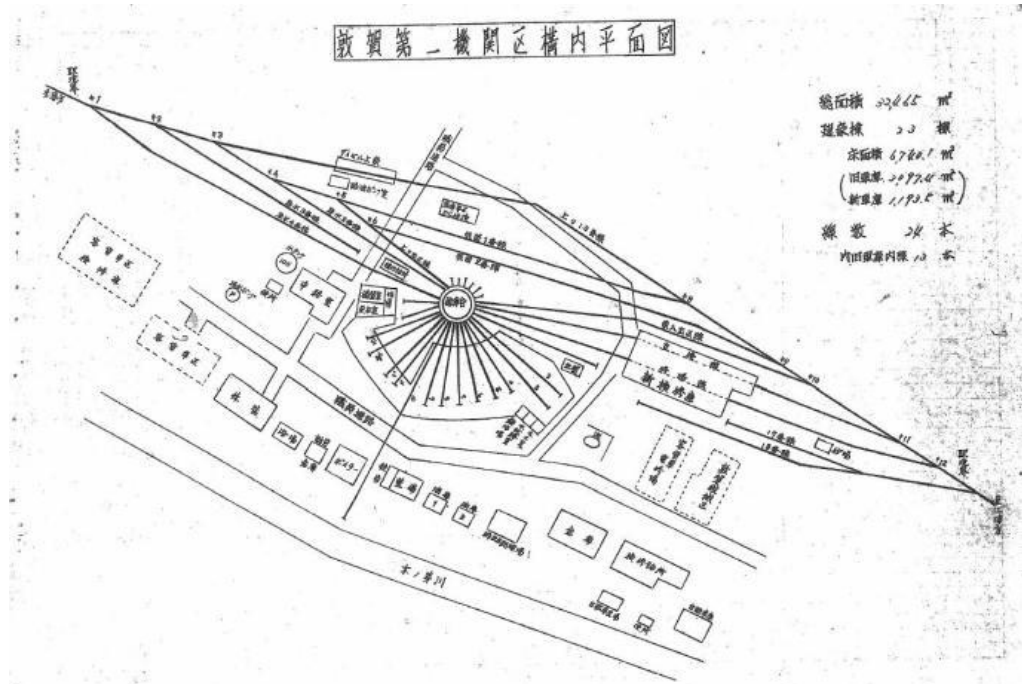
- ポーランド孤児やユダヤ人難民たちは、ウラジオストク経由でここに到着し、さらにめいめい海外へ逃れ、自由を手に入れた。



# 5. 復元する建造物

## (7) 転車台

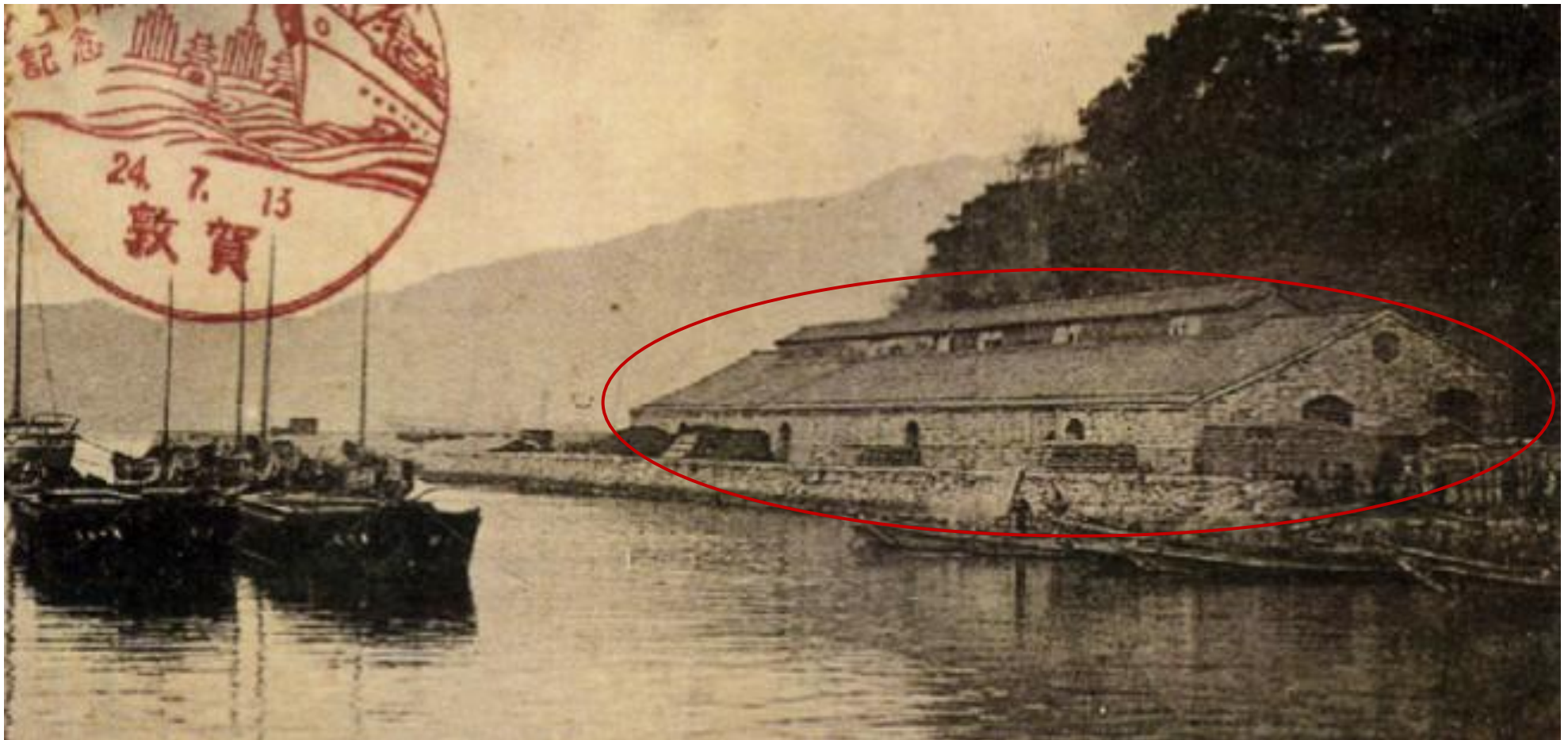
- 大正2年、敦賀駅に扇形機関車庫が整備され、ほぼ同時期に転車台も設置。転車台は平成15年頃まで使用された。現在、昭和27年製造の転車台が福井県により解体保存されている。



## 5. 復元する建造物

### (8) 石蔵(将来的な復元を検討)

- 明治15年の鉄道開通後、岸壁沿いにいち早く建てられた。関西や中京、日本海各地から流入出する物資が集積された。



※正確な存在時期は不明



# 6. 復元のイメージ

## (1) 建物の復元

- 埋め立てにより当時の棧橋から先は芝生化されているため、昔の棧橋の雰囲気再現しにくいことに留意。
- 建物復元だけでは演出不足で、往時の雰囲気が再現しにくい。



# 7. 復元4棟の規模

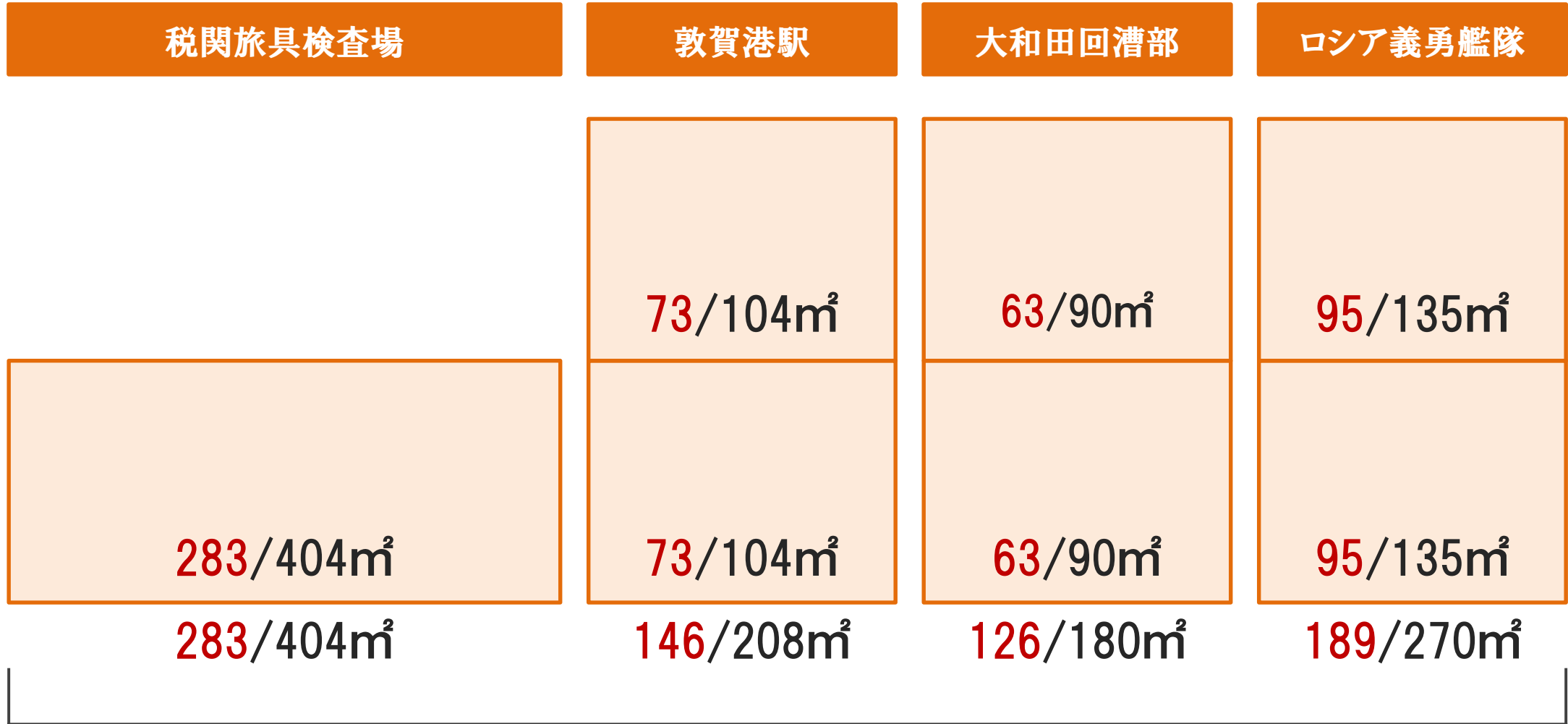
## (1) 復元4棟の面積(表)

建築物	建物面積	階層	延床面積	有効面積
税関旅具検査場	約404m <sup>2</sup>	1階	約404m <sup>2</sup>	約283m <sup>2</sup>
敦賀港駅	約104m <sup>2</sup>	2階	約208m <sup>2</sup>	約146m <sup>2</sup>
大和田回漕部	約90m <sup>2</sup>	2階	約180m <sup>2</sup>	約126m <sup>2</sup>
ロシア義勇艦隊	約135m <sup>2</sup>	2階	約270m <sup>2</sup>	約189m <sup>2</sup>
合計	約733m <sup>2</sup>	—	約1,062m <sup>2</sup>	約743m <sup>2</sup>

- 建物面積は、測量に基づく想定値。設計によって若干の誤差が出る可能性があることに留意。
- 有効面積は、共用部(通路・倉庫・設備スペース等)を除いた、実質的に利用できる面積。延床面積の約7割で設定。

# 7. 復元4棟の規模

## (2) 復元4棟の面積(図)



有効面積計743m<sup>2</sup>/延床面積計1062m<sup>2</sup>

# 8. 施設の機能分担(案)

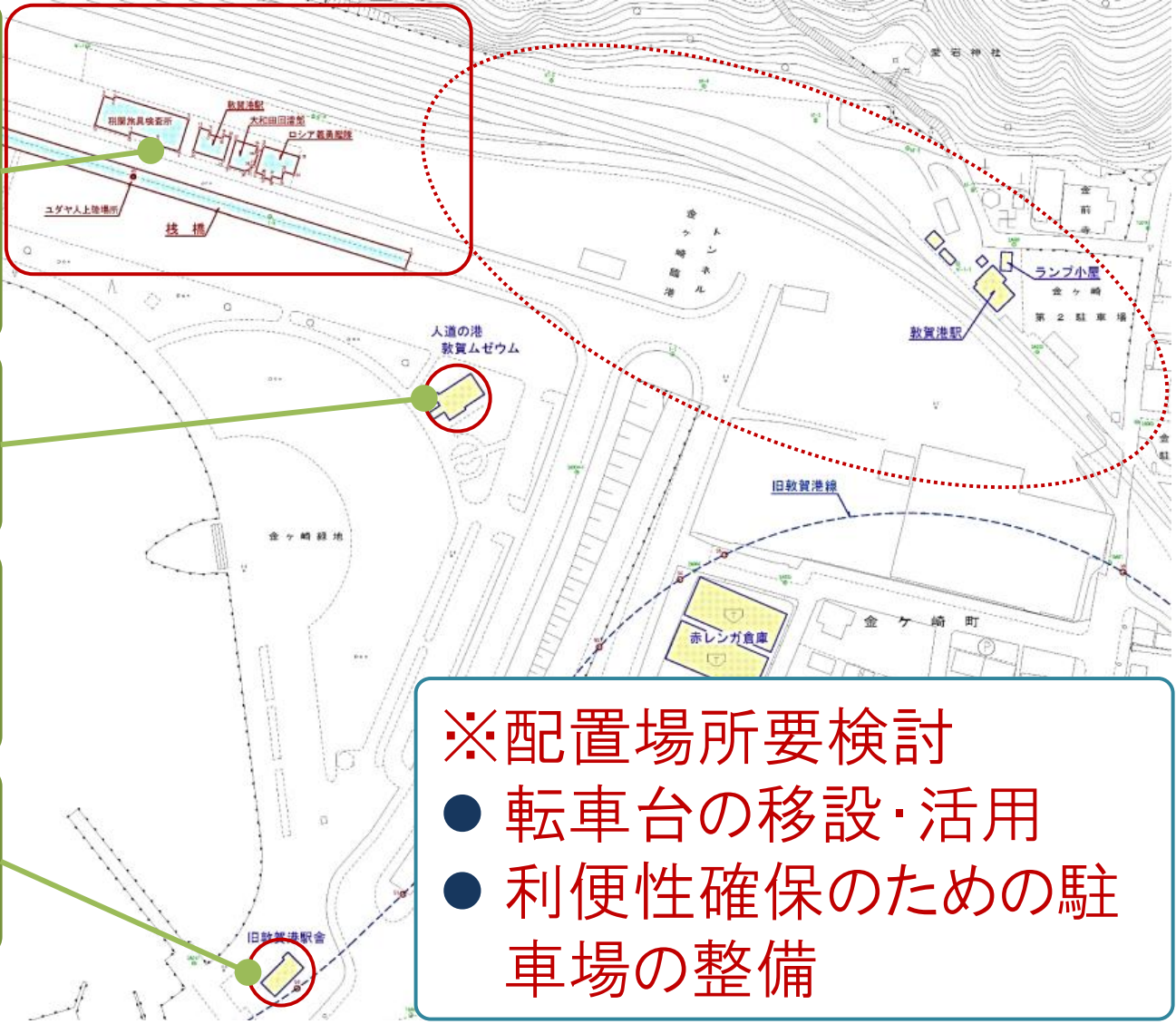
## ムゼウムは復元4棟に移設、既存施設を有効活用

- 軌道や石畳等の再現で華やかな往時を演出。
- 復元4棟は、ムゼウム機能に移転。

- 現ムゼウムは休憩所等に活用

- 用地を取得した範囲は軌道等、往時を再現。

- 資料館は現機能を活かし再編整備



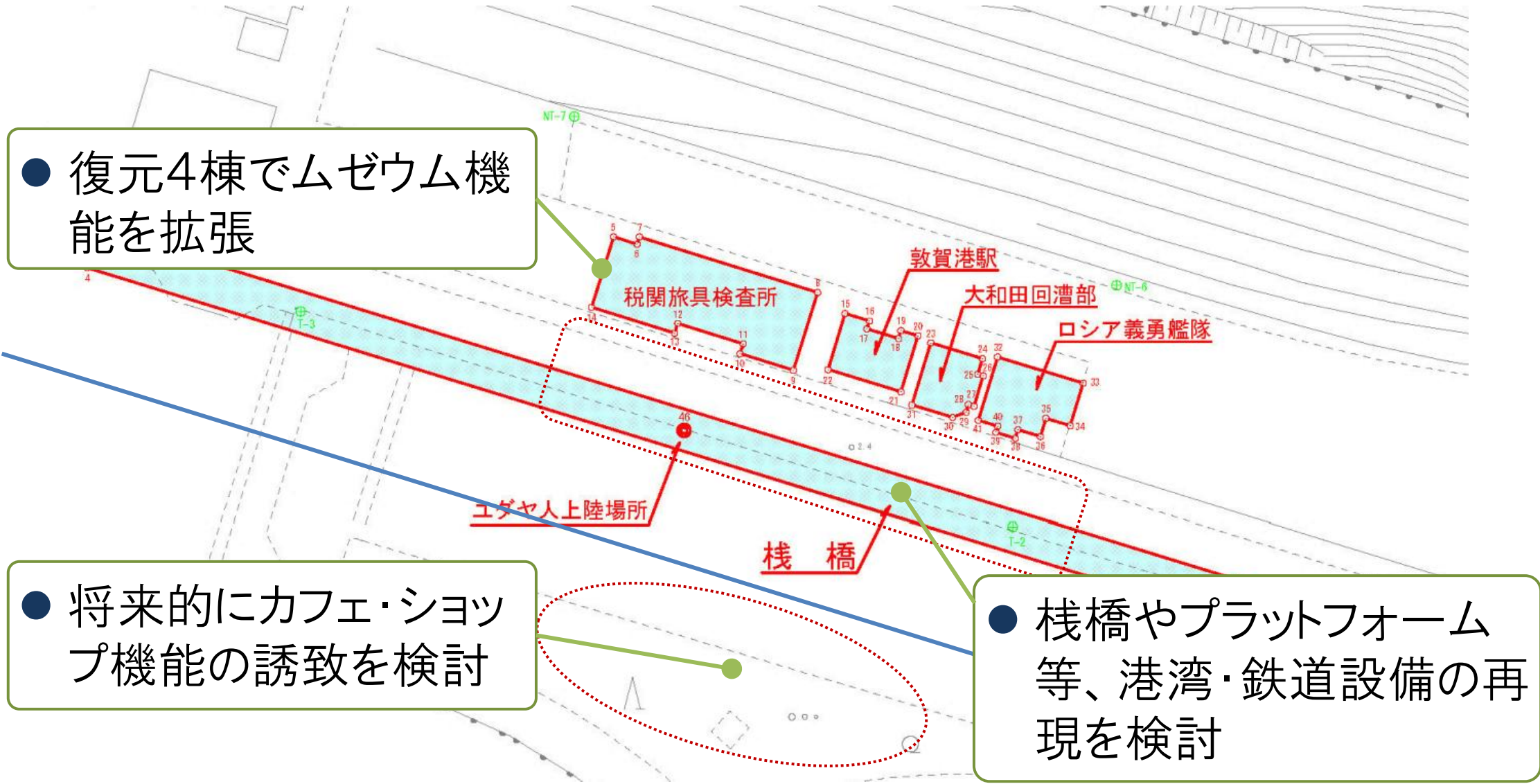
# 8. 施設の機能分担(案)

## ムゼウムは復元4棟に移設、既存施設を有効活用

● 復元4棟でムゼウム機能を拡張

● 将来的にカフェ・ショップ機能の誘致を検討

● 棧橋やプラットフォーム等、港湾・鉄道設備の再現を検討

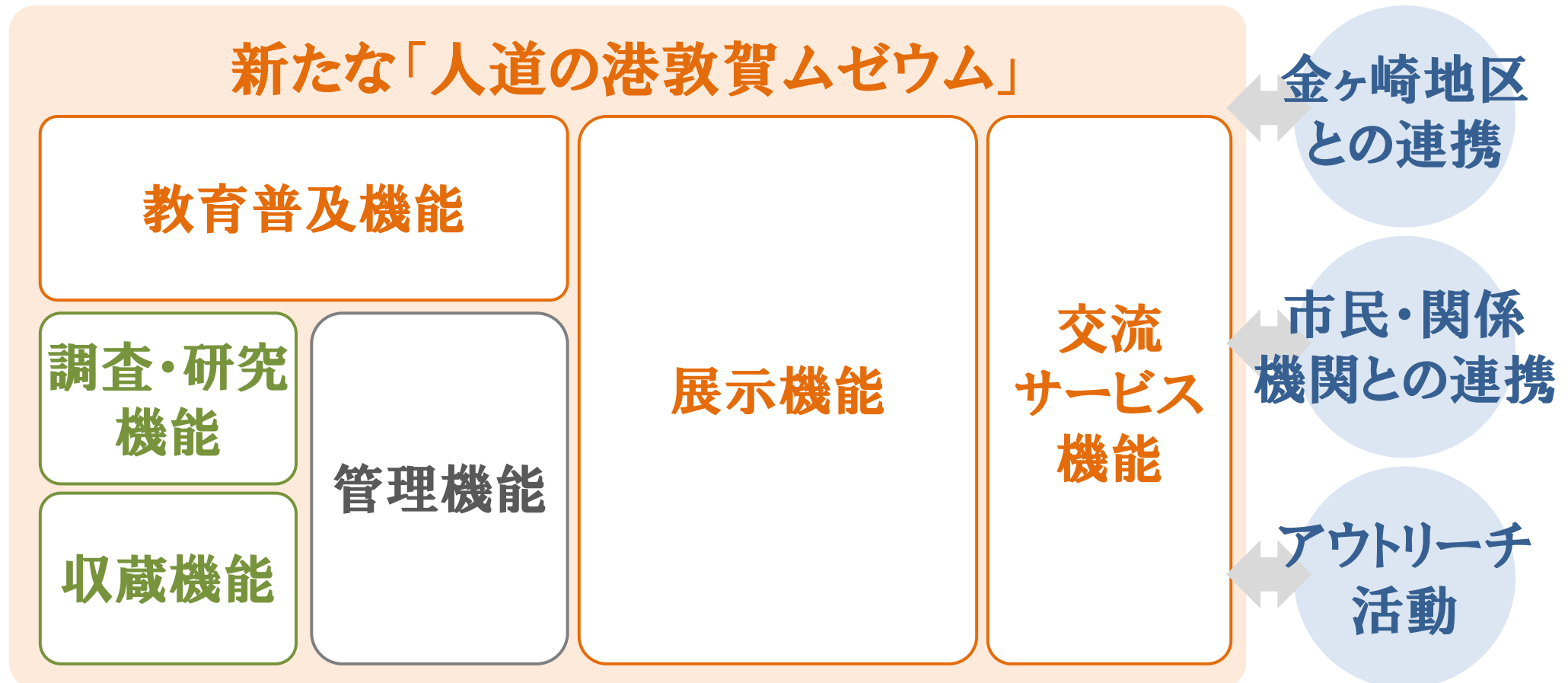


# 7. ムゼウムの機能計画

# 1. ムゼウムの機能

## (1) ムゼウムに必要な機能

- 主に展示機能に限定されている現在の機能を拡充し、諸事業の実現に十分な機能を確保する。



# 1. ムゼウムの機能

## (1) 収蔵機能 ((1)+(2)で想定面積約81㎡)

- 資料の形態や状態に応じて適切な環境で保存し、使いやすく整理できる収蔵庫を設ける。
- 環境の変化に脆弱な資料のため、恒湿の環境を整える。
- 資料や情報は将来的に増加することに留意する。

## (2) 調査・研究機能

- ポーランド孤児やユダヤ人難民、敦賀の港湾史・鉄道史等の調査・研究に必要な作業スペースを確保し、備品等を整える。
- 市立博物館との機能分担や連携に留意する。



# 1. ムゼウムの機能

## (3) 展示機能

### ①常設展示 (①+②で想定面積約171㎡)

- 現在の展示構成を踏襲しつつ拡充し、近代の敦賀の港湾や鉄道に関する情報や、ポーランド孤児、ユダヤ人難民、杉原千畝に関する情報や資料を展示する。

### ②交流展示

- ポーランド孤児・ユダヤ人難民その人、或いは遺族から政府関係者等、関連する人たちと敦賀の交流を展示する。活動を通し、発展拡張させていく。

### ③企画展示 (想定面積約57㎡)

- 特定のテーマを掘り下げ、敦賀市や関連諸機関の資料や情報を一定期間展示する。

# 1. ムゼウムの機能

## (3) 展示機能

### ③シアター (③+④で想定面積約85㎡)

- 学習旅行や団体旅行等の大人数の利用者へ、同時に等しく情報が伝えられるように、映像コンテンツを上映できるシアターを設ける。複数のコンテンツを提供する。

### ④眺望

- 現在の敦賀港と、古き良き敦賀を眺望できる機能を設ける。

### ⑤屋外展示

- ユダヤ人上陸の場所をはじめ、歴史の舞台となった場所にはサインやアプリによって情報が得られるようにする。自撮りの名所としてSNSで拡散できるようにする。
- 郊外の鉄道遺産等、ここを起点に市内全域を巡れるようなしかけを整える。

# 1. ムゼウムの機能

## (3) 展示機能

### ⑥ 展示構成の概念

#### 常設展示

##### 近代敦賀の発展

- 港湾・鉄道関係の情報を充実。近代の敦賀を紹介。

##### 東洋の波止場

- ロシアや満州との交易を中心に物流・人流を紹介。

##### 友愛

- 当時の世界情勢を踏まえ、ポーランド孤児、杉原千畝、ユダヤ人難民を紹介。

#### 交流展示

- 敦賀から育まれた世界との交流

#### 企画展示

- 特定テーマを掘り下げて紹介

#### シアター

- 敦賀の出来事を早わかり

#### 眺望

現在の敦賀と古き良き敦賀の眺望

#### 屋外展示

復元4棟  
周辺

金ヶ崎地区  
周辺

市内全域

# 1. ムゼウムの機能

## (4) 教育普及機能 (想定面積約183㎡)

- 講座や講演、ミニイベント等が行えるスペースを設ける。
- 学習利用や団体旅行の利用客を収容できることに留意する。
- 学習利用や団体旅行の利用者が離合集散できる場所を設ける。
- 学習利用時、雨天でもお弁当が食べられる場所を設ける。

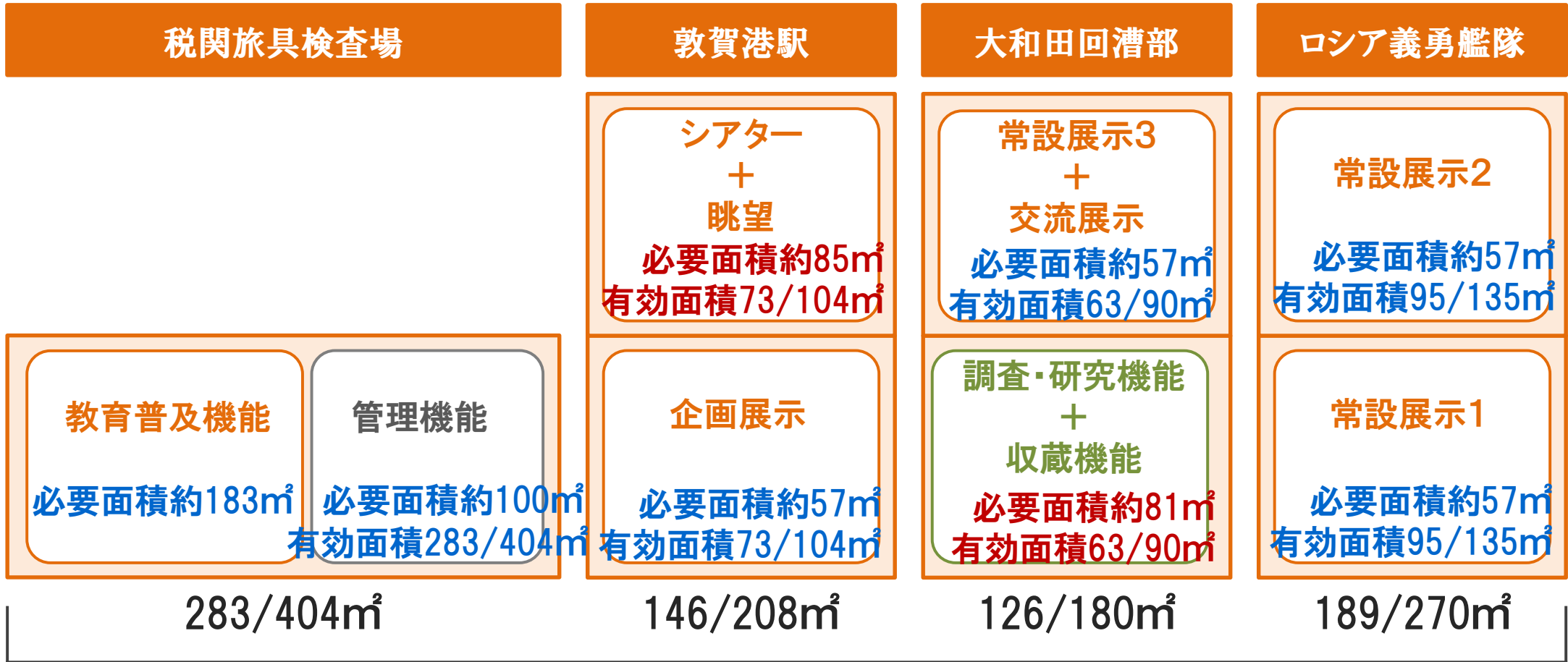
## (5) 管理機能(交流サービス機能含む) (想定面積約100㎡)

- ムゼウムの管理に必要な規模を確保する。
- 管理に加え、広報・情報発信に関する業務を行う。

# 2. ムゼウムの機能配分

## (1) 機能配分(案)

- 前項の設定に従い、復元4棟に諸室を仮配置する。なお、現ムゼウムは延床面積278㎡、展示面積177㎡で、規模はおよそ3.8倍となる。



有効面積計743/延床面積計1062㎡

# 2. ムゼウムの機能配分

## (2) 規模設定

- 機能拡充にあたっては、今後、慎重にその規模を検討する。
- 但し、ムゼウム部会では総意として規模の拡張が望まれている。

	①現建築の改修	②復元4棟へ移設	③新築
概要	● 現在の規模を維持する	● 復元4棟に機能移転する	● 復元4棟以外の建物を新築する
メリット	● 事業費・維持管理費を最も抑制できる(◎)	● 助成金の範囲内で整備が可能(◎)	● 事業活動に十分な規模を確保できる(◎)
デメリット	● 現在と同様に事業活動が十分にできない(×) ● 単費負担(×)	● 全ての機能を4棟に収めるには設計上の工夫が必要(△)。	● 事業費・維持管理費を最も必要とする(×) ● 単費負担(×)

- 以上の結果、「②復元4棟への移設」が望ましいと考えられる。

# 3. 今後の検討課題

## (1) 金ヶ崎地区全体の検討課題

- 金ヶ崎地区全体の一体的な整備のためのマスタープランのブラッシュアップを行う。
- 赤レンガ倉庫を始めとする既存資源や事業体との連携方策の検討する。
- ボランティアや市民団体等の活動拠点となる場の確保。
- 観光客の利便性を高めるためのバスや乗用車の駐車場の規模、場所の検討。
- サービス機能は民間資本の誘致等を今後検討する。
- 民間資本の誘致にあたっては、例えば、海外の富裕層に向けたきめ細かいサービスを提供できる高級ホテルの整備等、様々な可能性を検討していく。
- 市内外の回遊性、観光スポットとの連携に向けた具体的な方策の検討。

# 3. 今後の検討課題

## (2) ムゼウムの整備方針

- 復元4棟はミュージアム機能に徹した上でその役割を果たす。
- 面積の仮設定から導き出した諸室配置では、面積に過不足はあるものの、概ね要求を満たしていることから、設計段階で詳細検討していき、機能を充足させる。

## (3) 鉄道遺産の整備方針

- 地区内の既存設備の具体的な活用方法の検討。
- 敦賀駅から地区までの軌道の具体的な活用方法の検討。
- 旧転車台の具体的な活用方法や設置場所の検討。
- 市内外の鉄道遺産との具体的な連携方策の検討。



# 8. 管理運営計画

# 1. 運営のあり方

## 「質の高いサービスの提供」「事業の継続性」の両立に留意

### (1) 敦賀市の指定管理者制度

- 敦賀市では、現在**5施設で指定管理者制度を導入**。

#### 【導入施設】

- 赤レンガ倉庫
- きらめきみなと館
- 敦賀市黒河農村ふれあい会館
- 敦賀市農産物直売所「ふるさと夢市場」
- 敦賀きらめき温泉リラ・ポート



### (2) 民間活力導入の留意点

- 民間活力の参入を促し、質の高いサービスを提供するため、指定管理者制度の導入を検討。
- 但し、収集保存・調査研究事業をはじめ、**長期に渡る安定性・継続性が求められる業務も存在**することから、運営方式は今後慎重に検討していく。